

鹿児島県外来種リスト

2016（平成28）年3月

（2025（令和7）年3月改正）

鹿児島県

1 目的

本県は、南北600kmにも及ぶ県土や、3つの気候帯（亜熱帯、暖温帯、冷寒帯）を有するとともに、渡瀬線を挟んだ2つの生物地理区の移行帯に位置するほか、島嶼が多い特徴を持ち、独自の固有種・固有亜種や、北限種・南限種とされる生物も多く生息・生育している。

このような中、本県では、国外のみならず国内、県内を由来とする外来種により、本県の生物多様性等に被害が生じているが、こうした問題について県民の十分な理解が得られているとは言いがたいのが現状である。

このため、鹿児島県の生態系、農林水産業や人の生活に悪影響をもたらす、あるいはもたらすおそれのある外来種の問題について実態を把握し、今後の外来種対策における基礎資料とするため、鹿児島県外来種リストを作成した。

2 経緯と検討体制

県では、2014（平成26）年10月に、鹿児島県外来種対策検討委員会（座長：舩越公威鹿児島国際大学教授）（表1）を設置し、鹿児島県外来種リストの作成方針等について検討を行うとともに、平行して分類群ごとに設置したワーキンググループの調査員（表2）によるリスト案の作成を行った。2016（平成28）年3月までに合計4回の会議を開催し、最終的に全体の整合性等について修正を行った上で、鹿児島県自然保護課が決定した。

なお、2025（令和7）年3月には、2023（令和5）年度及び2024（令和6）年度に実施した県内への外来種の侵入状況調査の結果や、外来種対策検討委員会での議論等を踏まえ、鹿児島県外来種リストの見直しを行った。

表1 鹿児島県外来種対策検討委員名簿（2014年現在）

区分	氏名	職名	備考
委員	舩越 公威	鹿児島国際大学国際文化学部 教授	哺乳類 (鳥類)
〃	太田 英利	兵庫県立大学 教授	爬虫類 両生類
〃	四宮 明彦	元鹿児島大学水産学部 教授	汽水・淡水産魚類
〃	山根 正氣	元鹿児島大学理学部 教授	昆虫類 その他節足動物
〃	富山 清升	鹿児島大学理学部 准教授	陸産貝類・淡水汽水産貝類、 その他無脊椎動物
〃	丸野 勝敏	鹿児島大学総合研究博物館学外協力研究者	維管束植物
〃	宮本 句子	鹿児島大学理工学研究科准教授	維管束植物
庁内委員	久保 慎也	森林技術総合センター 職員	林業害虫
〃	厚地 伸	水産振興課 職員	外来魚（H26）
〃	和田 実	水産振興課 職員	外来魚（H27）
〃	下津 文宏	病害虫防疫所 職員	農業害虫
〃	山道 哲洋	廃棄物・リサイクル対策課 職員	ヤンバルトサヤステ（H26）
〃	脇田 安彦	廃棄物・リサイクル対策課 職員	ヤンバルトサヤステ（H27）
〃	下古立 浩	義務教育課 職員	
〃	金井 賢一	県立博物館 学芸主事	
〃	寺田 仁志	県立博物館 学芸主事	

表2 ワーキンググループ調査員名簿

生物群	氏名	職名	備考
哺乳類	舩越 公威	鹿児島国際大学国際文化学部教授	グループ長
	服部 正策	東京大学医科学研究所	奄美諸島
	岡田 滋	(一財)鹿児島県環境技術協会	
	塩谷 克典	(一財)鹿児島県環境技術協会	
鳥類	山元 幸夫	鹿児島県立博物館	グループ長
	溝口 文男	日本野鳥の会鹿児島県支部	
爬虫類・両生類	太田 英利	兵庫県立大学教授	グループ長
	池 俊人	鹿児島県立博物館	
	小溝 克己	国分高等学校	
	岡田 滋	(一財)鹿児島県環境技術協会	
汽水・淡水産魚類	四宮 明彦	元鹿児島大学水産学部教授	グループ長
	米沢 俊彦	(一財)鹿児島県環境技術協会	
	目黒 昌利	(一財)鹿児島県環境技術協会	
昆虫類	山根 正気	元鹿児島大学理学部教授	グループ長
	金井 賢一	鹿児島県立博物館	
	今村 久雄	鹿児島昆虫同好会	トンボ類
	熊谷 信晴	鹿児島昆虫同好会	
	久保田 義則	鹿児島昆虫同好会	屋久島
	西 真弘	奄美昆虫同好会	奄美諸島
	前田 芳之	鹿児島昆虫同好会	奄美諸島
陸産貝類・ 淡水汽水産貝類	富山 清升	鹿児島大学理学部准教授	グループ長
	山本 智子	鹿児島大学水産学部准教授	汽水・海産種
	小野田 剛	NPO 法人くすのき自然館	
	重田 弘雄	日本貝類学会	奄美諸島
	西 邦雄	日本貝類学会	
	行田 義三	日本貝類学会	
	中島 貴幸	樋脇中学校	
	片野田 裕亮	吉松中学校	
	内田 里那	北九州市立科学館	
	大窪 和理	鹿児島大学大学院理工学研究科	
	坂井 礼子	鹿児島大学大学院理工学研究科	
維管束植物	丸野 勝敏	鹿児島大学総合研究博物館学外協力研究者	グループ長
	宮本 旬子	鹿児島大学大学院理工学研究科准教授	
	田畑 満大	奄美の自然を考える会	奄美諸島
	大屋 哲	入来中学校	
	久保 紘史郎	種子島高等学校	

3 外来種リスト掲載種

本外来種リストでは、既存の文献等の情報を基に、本県（県内由来外来種については、本県のうちその種の自然分布域外である地域。以下同じ。）に到達するまでの全部、又は一部の段階において人為が働いたと推定される種、又は侵入の経緯が情報不足等により不明な種の中から、本県に定着している、及びそのおそれのある外来種を選定して掲載した。

（１）定着の有無について

定着を「ある種がその自然分布域を超えた県内地域において、人の管理下外で繁殖し、個体群を維持している（又はその可能性が高い）状態」と定義し、その有無について判定を行う。定着状況の解明度は分類群によって大きく異なっているものの、既知の知見等に基づき、本県への定着の有無を評価する。定着が確認されていないものや、情報不足等により定着状況が不明のものは、下記（２）の定着のおそれによって掲載の有無を判断することとする。

なお、定着の根拠となる論文等の情報が十分に存在しない場合でも、検討委員及びワーキンググループが合理的と判断した種については、定着しているものとみなす。

（２）定着のおそれについて

まだ本県に定着していないが、近い将来に本県への定着のおそれがあると判断される種も対象に含めた。定着のおそれの判断については、以下の条件を基に判断した。

■生物学的条件

→ 気候適合性、環境適合性、繁殖特性、食性、上位捕食者の存在等

■社会的条件

→ 本来の生息域外への非意図的な移入の機会が多い、又は、実験や養殖、愛玩飼養・栽培等で県内で利用されており、逸出のおそれが高いと考えられるもの

なお、情報不足等により定着のおそれが判断できないが、定着を予防する必要があるものについては、予防的観点からリストに掲載した。

4 カテゴリー区分について

（１）由来

本来の生息域によって「国外由来外来種」、「国内由来外来種」及び「県内由来外来種」に分け、それぞれについてカテゴリー区分した。

（２）分類

カテゴリーは、①本県への影響（侵略性）の有無、②産業利用上重要な種であるか、③定着の有無、④対策の方向性、を検討した上で、以下の５つに区分した。

1) 防除対策種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、県内に定着しており、防除対策及び普及啓発が必要な種。本区分については、対策の優先度等に基づき、さらに以下の３つに細区分した。

a. 緊急防除種

本県に大きな影響を及ぼしており、緊急に防除対策が必要な種。

b. 重要防除種

本県に大きな影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。

c. 一般防除種

本県に影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。

2) 重点啓発種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、本県に定着しており、遺棄・導入・逸出防止等のための重点的な普及啓発が必要な種。

3) 定着予防種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、本県においてはまだ定着が確認されておらず、導入の予防や水際での監視、発見した場合の早期防除等が必要な種。

4) 産業管理種

本県に影響を及ぼす外来種のうち、産業利用が行われている種。利用時の逸出等防止のための適切な管理に重点を置いた普及啓発を行う種。

5) その他外来種

本県への影響がないと判断された種。

《本県への影響の考え方》

【評価項目】

- ①生態系、生物多様性への影響（捕食、競合・駆逐、その他在来食物網の攪乱、遺伝的攪乱、生態系基盤の破壊など）
- ② 重要地域及び重要保全対象への影響（生息地等保護区、絶滅危惧種など）
- ③ 人の健康や経済・産業への影響（人体・農林業・生活環境への被害など）

【評価基準】

- ①～③のそれぞれの項目を、以下の基準で評価した。
- ◎：大きい（可能性が高い）
- ：確認されている（可能性がある）
- ×：ない（可能性が低い）
- －：不明（確認されていない）

【該当ありの判定基準】

- ①又は②で◎と評価されたもの
- ① 又は②で○と評価され、かつ、③で◎若しくは○と評価されたもの

《対策の方向性の考え方》

【評価項目】

- ① 防除により、本県からの根絶又は著しく個体数を減少させることが可能である。
- ② 防除により、本県における分布域の拡大の防止又は縮小が見込まれる。

【判断基準】

①又は②に該当する場合には防除対策種、①及び②のどちらにも該当しない場合は重点啓発種と判定した。

《対策の優先度等の考え方》

【評価項目】

- ①保全対象（世界遺産地域、生息地等保護区、絶滅危惧種）の重要性
- ②現在の侵入・定着段階及び被害状況から見た防除の費用対効果
- ③対象種の侵略性(分散能力、繁殖力など)の大小
- ④人の健康や経済・産業への影響(人体・農林業・生活環境への被害など)の大小
- ⑤対策の実効性、実行可能性（効果的な防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある）

【評価基準】 ①～⑤のそれぞれの項目を、以下の基準で評価した。

- ◎：非常に高い(非常に大きい・非常に悪い・可能性が高い)
- ：高い(大きい・悪い・可能性がある)
- ×：ない(可能性が低い)
- －：不明(確認されていない)

【判断基準】

a. 緊急防除種

- ・ ①～④までの2以上の項目において◎と評価され、かつ⑤において◎と評価されたもの
- ・ ①～④までの3以上の項目において◎又は○と評価され、かつ⑤において◎と評価されたもの

b. 重要防除種

- ・ ①～④までの2以上の項目において◎と評価され、かつ⑤において○と評価されたもの
- ・ ①～④までの3以上の項目において◎又は○と評価され、かつ⑤において○と評価されたもの

c. 一般防除種

緊急防除種、重要防除種のいずれにも該当しないもの

鹿児島県外来種リスト掲載種及びカテゴリー区分概要図

1. 外来種リスト掲載種の選定

本県（県内由来外来種については、本県のうちその種の自然分布域外である地域。以下同じ。）で確認されている又は過去に生息情報がある外来種のうち、次の条件にあてはまるものを外来種リストに掲載する。

- 本県への定着が確認されているもの
- 本県への定着は確認されていないが、今後定着するおそれがある又は定着のおそれが判断できないが、定着を予防する必要性が高いもの

2. カテゴリー区分について

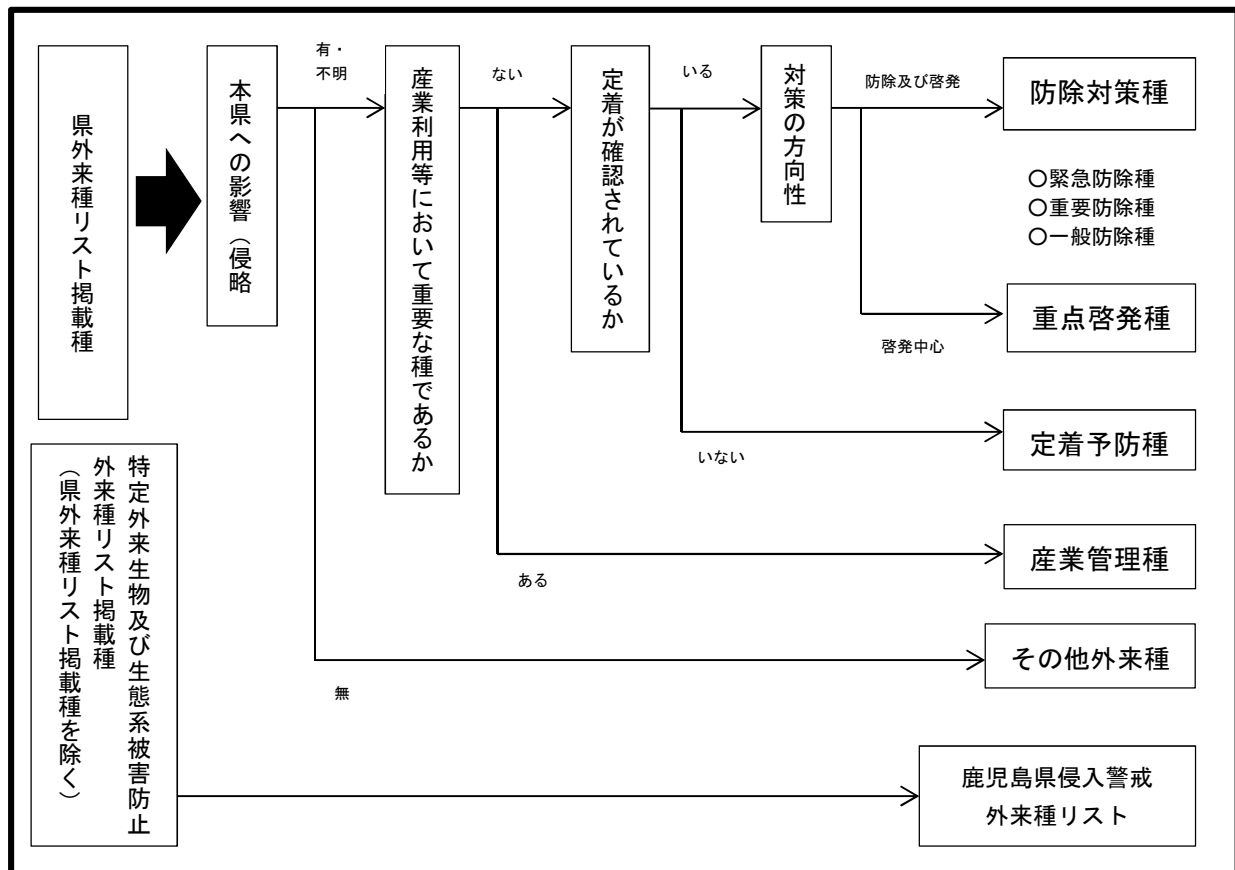
(1) 由来

国内由来外来種

国外由来外来種

県内由来外来種

(2) 分類



5 カテゴリー区分結果

表3 各生物群のカテゴリー区分別種類数

生物群	防除対策種			重点啓発種	定着予防種	産業管理種	その他外来種	合計
	緊急防除種	重要防除種	一般防除種					
哺乳類	4	5	7		2			18
鳥類	3	3		1	2		1	10
爬虫類	3	2	5		1		3	14
両生類	1	1			1		2	5
汽水・淡水産魚類	2	3	5	10	1	8	16	45
海産魚類							1	1
昆虫類	3	12	7	9	2		27	60
その他節足動物	2	1	1	1	1			6
陸産貝類・淡水汽水産貝類	3	6	6	7	2	4	2	30
その他無脊椎動物	1			2				3
維管束植物	3	23	52	369	16	18	180	661
合 計	25	56	83	399	28	30	232	853

1 防除対策種 / 緊急防除種 25種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
哺乳類	県内	ニホンイタチ	指定外来動植物
	国外	ノネコ	
	国外	ノヤギ	
	県内	ヤクシマザル	
鳥類	国外	インドクジャク	指定外来動植物
	国外	ソウシチョウ	特定外来生物
	国外	コブハクチョウ	
爬虫類	県内	オキナワキノボリトカゲ	指定外来動植物
	国外	アカミミガメ （ミシシippアカミミガメ）	特定外来生物 （条件付き）
	国外	ホオグロヤモリ	
両生類	国外	シロアゴガエル	特定外来生物
汽水・淡水産魚類	国外	ブルーギル	特定外来生物
	国外	オオクチバス	特定外来生物
昆虫類	国内	アリモドキゾウムシ	植物防疫法規制対象
	国内	イモゾウムシ	植物防疫法規制対象
	国外	アルゼンチンアリ	特定外来生物
その他節足動物	国外	セアカゴケグモ	特定外来生物
	国外	ハイイロゴケグモ	特定外来生物
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アフリカマイマイ	植物防疫法規制対象
	国外	ラブラリンゴガイ	植物防疫法規制対象
	国外	スクミリンゴガイ	植物防疫法規制対象
その他無脊椎動物	国外	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	特定外来生物
維管束植物	国内	アカギ	
	国外	ホテイアオイ	指定外来動植物
	国外	ミズヒマワリ	特定外来生物

2 防除対策種 / 重要防除種 56種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
哺乳類	国外	ノイヌ	
	県内	ニホンテン	
	県内	ニホンジカ	指定外来動植物： キュウシュウジカ
	県内	ホンドタヌキ	指定外来動植物
	県内	イノシシ（イノブタ）	指定外来動植物
鳥類	県内	キジ	
	国外	シマキンパラ	
	国外	ガビチョウ	特定外来生物
爬虫類	県内	ニホンスッポン	指定外来動植物
	県内	ミナミヤモリ	
両生類	国外	ウシガエル	特定外来生物
汽水・淡水産魚類	県内	ギンブナ	
	国外	カダヤシ	特定外来生物
	国外	ジルティラピア	指定外来動植物
昆虫類	国外	トコジラミ	
	県内	ミカンキジラミ	
	国外	イエシロアリ	
	国外	チャバネゴキブリ	
	県内	ゴマダラカミキリ	
	県内	マツノマダラカミキリ	
	国外	ヤシオオオサゾウムシ	
	国外	デイゴヒメコバチ	
	国外	イエヒメアリ	
	国外	バショウコクゾウムシ	
	国外	カイガラムシ（アウラカスピス ヤスマツイ）	
	国外	タイワンゴマダラカミキリ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
その他節足動物	国外	アメリカザリガニ	特定外来生物 (条件付き)
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アシヒダナメクジ	
	国外	ソメワケダウラガイ	
	国外	コウラナメクジ（キイロナメクジ）	
	国外	インドヒラマキガイ	
	県内	ヌノメカワニナ	
	国外	タイワンシジミ種群	指定外来動植物
維管束植物	国外	ナガエツルノゲイトウ	特定外来生物
	国外	セイヨウミヤコグサ	
	国外	ナンバンアカバナアズキ	
	国外	ウマゴヤシ	
	国外	クスダマツメクサ	
	国外	コメツブウマゴヤシ	
	国外	ツノクサネム	
	国外	アメリカツノクサネム	
	国外	コメツブツメクサ	
	国外	ベニバナツメクサ	
	国内	ツルフジバカマ	
	国外	ホソバヤハズエンドウ	
	国外	ケツルアズキ	
	国外	ツルアズキ	
	国外	ボタンウキクサ	特定外来生物
	国外	ウスゲオオバナミズキンバイ	特定外来生物
	国外	アキノエノコログサ	
	国外	オオアワダチソウ	
	国外	シマトキンソウ	
	国外	ツルヒヨドリ（コバナツルギク）	特定外来生物
	国外	オオフサモ	特定外来生物
	国外	オオカワヂシャ	特定外来生物
	国外	ヨシススキ	

3 防除対策種 / 一般防除種 83種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
哺乳類	国外	ハクビシン	
	国外	シベリアイタチ	
	国外	ハツカネズミ	
	国外	クマネズミ	
	国外	ドブネズミ	
	国外	アナウサギ	
	国外	ジャコウネズミ	
爬虫類	国外	クサガメ	指定外来動植物
	国外	タシロヤモリ	
	国外	ニホンヤモリ	
	県内	シマヘビ	
	国外	アフリカツメガエル	指定外来動植物
汽水・淡水産魚類	国外	グリーンソードテール	指定外来動植物
	国外	サザンプラティフィッシュ	
	国外	グッピー	
	国内	ギギ	
	国内	アブラボテ	
昆虫類	国外	サツマイモノメイガ	植物防疫法規制対象
	県内	ホシベニカミキリ	
	県内	クワカミキリ	
	国外	アルファルファタコゾウムシ	
	国内	シロスジオサゾウムシ	
	国外	クスベニヒラタカスミカメ	
	国外	シロテンハナムグリ台湾亜種（サカイシロテンハナムグリ）	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
その他節足動物 陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	ヤンバルトサカヤスデ	
	県内	オオトカラノミギセル	
	県内	アズキガイ	
	国外	トクサオカチョウジガイ	
	国外	チャコウラナメクジ	植物防疫法規制対象
	国外	サカマキガイ	
	国外	ハブタエモノアラガイ	
維管束植物	国外	外来アゾラ類（アゾラ・クリスタタを含む）	特定外来生物（Azolla cristataに限る）
	国外	トクサバモクマオウ	
	国外	ムシトリナデシコ	
	国外	ハゴロモモ	
	国外	ソバカズラ	
	国外	ギンゴウカン（ギンネム）	
	国外	トウゴマ	
	県内	アブラギリ	
	国外	イチビ	
	国外	セイヨウヒルガオ	
	国外	アメリカネナシカズラ	指定外来動植物
	国外	コダチチョウセンアサガオ	指定外来動植物
	国外	チョウセンアサガオ	
	国外	キダチチョウセンアサガオ（オオバナ チョウセンアサガオ）	指定外来動植物
	国外	ヨウシュチョウセンアサガオ（シロバナ チョウセンアサガオ）	
	国外	アメリカイヌホオズキ	
	国外	メリケンムグラ	
	国外	オオスズメウリ	
	国外	ブタクサ	
	国外	オオブタクサ	
	国外	ハリビユ	
	国外	シノブボウキ	
	国外	クルマバヒメクグ	
	国外	ベニツツバナ	
	国外	センダンキササゲ	
	国外	ケシ	
	国外	カラクサナズナ（カラクサガラシ）	
	国外	タチアワユキセンダグサ	
	国外	オオキンケイギク	特定外来生物
	国外	ナルトサワギク	特定外来生物
	国外	セイタカアワダチソウ	
	国外	メリケントキンソウ	指定外来動植物
	国外	ヤナギバヒメジョオン	
	国外	ヘラバヒメジョオン	
	国外	オオオナモミ	
	国外	オオカナダモ	指定外来動植物
	国外	シナダレスズメガヤ	
	国外	タカサゴユリ（シンテッポウユリ）	
	国外	ドクニンジン	
	国外	アレチウリ	特定外来生物
	国外	ヒメジョオン	
	国外	ハルジオン	
	国外	ヒマワリヒヨドリ	
	国外	ワタゲツルハマグルマ	
	国外	ナガバオモダカ	
	国外	コカナダモ	
	国外	アレチイボクサ	
	国外	メリケンカルカヤ	
	国外	ドクムギ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	オオアワガエリ	
	国外	キショウブ	
	国外	マルバヒメアメリカゼナ	

4 重点啓発種

399種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
鳥類	国外	カワラバト（ドバト）	
汽水・淡水産魚類	国内	ヤリタナゴ	
	国外	タイリクバラタナゴ	
	国内	ハス	
	国内	オイカワ	
	県内	ウグイ	
	国外	スリコギモーリー	
	国内	タウナギ	
	国外	カウスズメ（モザンビークティラピア）	指定外来動植物
	国外	ナイルティラピア（チカダイ）	指定外来動植物
	国外	カムルチー	指定外来動植物
昆虫類	県内	カブトムシ	
	国内	ゲンジボタル	
	国外	カンザイシロアリ	
	国外	ツヤオオズアリ	指定外来動植物
	国外	ナンヨウテンコクオオズアリ	
	国外	アシナガキアリ	
	国外	ヒゲナガアメイロアリ	
	国外	アメリカミズアブ	
	国外	アシジロヒラフシアリ	
	国内	カブトエビ類	
その他節足動物	国内	セタシジミ	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	ムラサキイガイ	
	国外	ミドリイガイ	
	国外	オオオカチョウジガイ	
	国外	コハクガイ	
	国外	ヒメコハクガイ	
	国外	オナジマイマイ	
	国内	ギボシムシの一種	
その他無脊椎動物	国外	カサネカンザシ	
維管束植物	国内	イヌカタヒバ	
	国外	コンテリクラマゴケ	
	国外	ヒハツモドキ	
	国外	チャラン	
	国外	ナンバンカラムシ	
	国外	コゴメミズ	
	国外	シャクチリソバ	
	国外	ダツタンソバ	
	県内	ツルタデ	
	国外	ハイミチャナギ	
	国外	ツルドクダミ	
	国外	ヒメツルソバ	
	国外	オオケタデ	
	国外	ハリタデ	
	国内	オオイタドリ	
	県内	スイバ	
	国外	ヒメスイバ	
	国外	アレチギシギシ	
	国外	ナガバギシギシ	
	国外	エゾノギシギシ	
	国外	シロザ	
	国外	アカザ	
	国外	アカバアカザ	
	国外	アリタソウ（ケアリタソウを含む）	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	アメリカアリタソウ	
	国外	ウラジロアカザ	
	国外	ミナトアカザ	
	国外	ホウキギ	
	国外	ホソバツルノゲイトウ	
	国外	ツルノゲイトウ	
	国外	ヒメシロビユ	
	国外	ヒモゲイトウ	
	国外	ハイビユ	
	国外	スギモリゲイトウ	
	国外	ホナガイヌビユ	
	国外	オオホナガアオゲイトウ	
	国外	ホナガアオゲイトウ	
	国外	ホソアオゲイトウ	
	国外	アオゲイトウ	
	国外	ヨウシュヤマゴボウ	
	国外	ヒメマツバボタン	
	国外	ハゼラン	
	国外	シロミミナグサ	
	国外	オランダミミナグサ	
	国外	ノハラナデシコ	
	国外	ヒゲナデシコ	
	国内	オオヤマフスマ	
	国外	イヌコモチナデシコ	
	国外	コモチナデシコ	
	国外	ヨツバハコベ	
	国外	ムシトリマンテマ	
	国外	ツキミマンテマ	
	国外	サクラマンテマ	
	国外	シロバナマンテマ	
	国外	マンテマ	
	国外	イタリーマンテマ	
	国外	ノハラツメクサ	
	国外	オオツメクサ	
	国外	シュウメイギク	
	国外	ナガミヒナゲシ	
	国外	アフリカフウチョウソウ	
	国内	ヒメフウチョウソウ	
	国外	ハルザキヤマガラシ	
	国外	アマナズナ	
	県内	エゾスズシロ	
	国外	キレハマメグンバイナズナ	
	国外	マメグンバイナズナ	
	国外	ショカツサイ	
	国外	セイヨウノダイコン	
	国外	ハマダイコン	
	国外	キレハイヌガラシ	
	国外	ダイコンモドキ	
	国外	ハタザオガラシ	
	国外	カキネガラシ	
	国外	イヌカキネガラシ	
	国外	セイロンベンケイ	
	国外	オノマンネングサ	
	国外	メキシコマンネングサ	
	国外	ツルマンネングサ	
	国内	ガクアジサイ	
	国外	オキジムシロ	
	国外	ソウシジュ	
	国外	イタチハギ	
	国外	ハナハギ	
	国外	エビスグサ	
	国外	ハブソウ（クサセンナ）	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	ホソミエビスグサ	
	国外	コガネタヌキマメ	
	国外	ハネタヌキマメ	
	国外	キバナハギ	
	国外	オオバタヌキマメ	
	国外	アレチヌスビトハギ	
	国外	ムラサキヌスビトハギ	
	国外	アコウマイハギ	
	国外	トウコマツナギ	
	国外	ナンバンコマツナギ	
	国外	タクヨウレンリソウ	
	国外	ヤマハギ	
	国外	オクシモハギ	
	国外	シロバナハギ（シラハギ）	
	国外	ネビキミヤコグサ	
	国外	コウマゴヤシ	
	国外	ニセウマゴヤシ	
	国外	シャグマハギ	
	国外	シロバナシナガワハギ	
	国外	シナガワハギ	
	国外	コシナガワハギ	
	国外	タチオランダゲンゲ	
	国外	ヤハズエンドウ（オオヤハズエンドウ）	
	国外	オランダフウロ	
	国外	ミツバオランダフウロ	
	国外	アメリカフウロ	
	国外	チゴフウロ	
	国外	イモカタバミ	
	国外	ハナカタバミ	
	国外	ムラサキカタバミ	
	国外	オッタチカタバミ	
	国外	オオキバナカタバミ（キイロハナカタバミ）	
	国外	フヨウカタバミ	
	国外	キバナノマツバニンジン	
	県内	マツバニンジン	
	国外	ゴシュユ	
	国外	コバナヒメハギ	
	国外	ハズ	
	国外	ショウジョウソウ	
	国外	ハイニシキソウ	
	国内	ハマタイゲキ	
	国外	オオニシキソウ	
	国外	コニシキソウ	
	国外	ハツユキソウ	
	国外	セイタカニシキソウ	
	国外	オガサワラコミカンソウ	
	国外	ナガエコミカンソウ	
	国外	オオアブラギリ（シナアブラギリ）	
	国外	マルバミズハコベ	
	国外	フウセンカズラ（コフウセンカズラを含む）	
	国内	シマツナソ	
	国内	リュウキュウトロロアオイ	
	国外	ショウジョウカ	
	国外	ウサギアオイ	
	国外	エノキアオイ	
	国外	フユアオイ	
	国外	キクノハアオイ	
	国外	ホソバキンゴジカ	
	国外	アメリカキンゴジカ	
	国外	キンシバイ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	ニオイスマシ	
	国外	シキザキベゴニア	
	国外	クダモノトケイソウ	
	国外	タンシウチワ	
	国外	ナンゴクヒメミソハギ	
	国外	ホソバヒメミソハギ	
	国外	トウビシ	
	国外	ヒレタゴボウ	
	国外	メマツヨイグサ	
	国外	オオキレハマツヨイグサ	
	国外	アレチマツヨイグサ	
	国外	ヒナマツヨイグサ	
	国外	オオマツヨイグサ	
	国外	コマツヨイグサ	
	国外	ユウゲショウ	
	国外	ヒルザキツキミソウ	
	国外	マツヨイグサ	
	国外	ツキミソウ	
	国外	ノハラマツヨイグサ	
	国外	イノンド	
	国外	マツバゼリ	
	国外	ノラニンジン	
	国外	ウイキョウ	
	国外	ナガミゼリ	
	国外	アカバナルリハコベ	
	国外	トウワタ	
	国外	フウセントウワタ	
	県内	コヒルガオ	
	国外	モミジバヒルガオ	
	国外	ヨウサイ	
	国外	アメリカアサガオ（マルバアメリカアサガオを含む）	
	国外	アサガオ（コアサガオ）	
	国外	イモネアサガオ	
	国外	マルバアサガオ	
	国外	ルコウソウ	
	国外	ネコアサガオ	
	国外	マメアサガオ	
	国外	ホシアサガオ	
	国内	ツタノハヒルガオ	
	県内	イヌムラサキ	
	国外	ナンバンルリソウ	
	国外	ヒギリ	
	国外	ランタナ	
	国外	ヤナギハナガサ	
	国外	アレチハナガサ	
	国外	ハマクマツヅラ（ヒメクマツヅラ）	
	国外	シュツコンパーベナ	
	国外	ヒメビジョザクラ	
	国外	セイヨウキランソウ	
	国外	ヒメオドリコソウ	
	国外	ヌマハッカ	
	国外	エゴマ	
	県内	レモンエゴマ	
	国外	ミナトタムラソウ	
	国外	ハナトラノオ	
	国外	ヤブチョロギ	
	国外	ビロードモウズイカ	
	国外	オオセンナリ	
	国外	ブドウホオズキ	
	国外	ヒロハフウリンホオズキ（センナリホオズキ）	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	ヒメセンナリホオズキ	
	国外	シヨクヨウホオズキ	
	国外	ワルナスビ	
	国外	キンギンナスビ	
	国外	オオイヌホオズキ（ムラサキイヌホオズキ）	
	国外	タマサンゴ	
	国外	ナンゴクイヌホオズキ	
	国外	トマトダマシ	
	国外	ウキアゼナ	
	国外	ニューギニアインパチェンス	
	国外	マツバウンラン	
	国外	アメリカアゼナ	
	国外	セイヨウヒキヨモギ	
	国外	タチイヌノフグリ	
	国外	フラサバソウ	
	国外	オオイヌノフグリ	
	国外	ムラサキイセハナビ	
	国外	イセハナビ	
	国外	ヘラオオバコ	
	国外	セイヨウオオバコ	
	国外	ツボミオオバコ	
	国外	オオフタバムグラ	
	国外	ハシカグサモドキ	
	国外	ノヂシャ	
	国外	キキョウソウ	
	国外	セイヨウノコギリソウ	
	国外	カッコウアザミ	
	国外	ムラサキカッコウアザミ	指定外来動植物
	国外	ブタクサモドキ	
	国外	カミツレモドキ	
	国内	イワヨモギ	
	国外	ヤブヨモギ	
	国外	チョウセンシオン	
	国外	ネバリノギク	
	国外	キダチコンギク	
	国外	ユウゼンギク	
	国外	ホウキギク	
	国外	コバノセンダングサ	
	国外	アメリカセンダングサ	
	国外	コセンダングサ	
	県内	センダングサ	
	国外	コシロノセンダングサ	
	国外	キバナコスモス	
	国外	イガヤグルマギク	
	国外	ルリアザミ	
	国外	クニガナ	
	国外	アレチノギク	
	国外	オオアレチノギク	
	国外	ハルシャギク	
	国外	マメカミツレ	
	国外	ベニバナボロギク	
	国外	アメリカタカサブロウ	
	国外	ダンドボロギク（ウシノタケダグサを含む）	
	国外	タケダグサ	
	国外	ペラペラヨメナ	
	国外	ヒメムカシヨモギ	
	国外	ケナシヒメムカシヨモギ	
	国外	テンニンギク	
	国外	コゴメギク	
	国外	ハキダメギク	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	ホソバノチチコグサモドキ（タチチチコグサ）	
	国外	チチコグサモドキ	
	国外	ウスベニチチコグサ	
	国外	ウラジロチチコグサ	
	国外	キバナタカサブロウ	
	国外	スイゼンジナ	
	国外	ダンゴギク	
	国外	キクイモ	
	国外	ヒメブタナ	
	国外	ブタナ	
	国外	アラゲハンゴンソウ	
	国外	タイワンハチジョウナ	
	国外	オニノゲシ	
	国外	フシザキソウ	
	国外	シオザキソウ	
	国外	アカミタンポポ	
	国外	セイヨウタンポポ	
	国外	ニトベギク	
	国外	アメリカハマグルマ	指定外来動植物
	国外	コウガイセキショウモ	
	県内	ハイコヌカグサ	
	国外	ノボロギク	
	国外	ヌカススキ	
	国外	ハナヌカススキ	
	国外	オオスズメノテッポウ	
	国外	ハルガヤ	
	国外	オオカニツリ	
	国外	ホソバツルメヒシバ	
	国外	ホウライチク	
	国外	ホテイチク	
	国外	パラグラス	
	国外	コバンソウ	
	国外	ヒメコバンソウ	
	国外	イヌムギ	
	国外	ムクゲチャヒキ	
	国外	ヒゲナガスズメノチャヒキ	
	国外	ノゲイヌムギ	
	国外	ウマノチャヒキ	
	国外	クリノイガ	
	国外	シンクリノイガ	
	国外	ヒメクリノイガ	
	国内	カンチク	
	国外	オヒゲシバ	
	国外	ジュズダマ	
	国外	ハトムギ	
	国外	タツノツメガヤ	
	国外	イヌメヒシバ	
	国外	ハキダメガヤ	
	国外	ヒエ	
	国外	シコクビエ	
	国外	ヌカカゼクサ	
	国外	タチカモジグサ	
	国外	スズメガヤ	
	国外	コスズメガヤ	
	国外	チャヒキモドキ	
	国外	イヌナギナタガヤ	
	国外	ヒロハノウシノケグサ	
	国外	ナギナタガヤ	
	国外	オオナギナタガヤ	
	国外	ムラサキナギナタガヤ	
	県内	オオウシノケグサ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	チャボウシノシッペイ	
	国外	シラゲガヤ	
	県内	イトアゼガヤ	
	国外	ハリノホ	
	県内	ネズミガヤ	
	国外	ボウムギ	
	国外	ハナクサキビ	
	国外	オオクサキビ	
	国外	ギネアキビ	
	国外	オガサワラスズメノヒエ	
	国外	シマスズメノヒエ	
	国外	チクゴスズメノヒエ	
	国外	キシュウスズメノヒエ	
	国外	コアメリカスズメノヒエ	
	国外	タチスズメノヒエ	
	国外	カナリークサヨシ	
	国外	コイチゴツナギ	
	国外	ルビーガヤ	
	国外	ツノアイアシ	
	国外	ヒメササキビ	
	国外	マダケ	
	国外	ハチク	
	国外	カンザンチク	
	国外	ナガハグサ	
	国内	クマザサ	
	国外	ザラツキエノコロ	
	国外	アフリカキンエノコロ	
	国外	トウチク	
	国外	セイバンモロコシ	
	国外	イヌシバ	
	国外	タイワンメカルガヤ	
	国外	シホウチク	
	国外	シュロガヤツリ	
	国外	メリケンガヤツリ	
	国内	ハブカズラ	
	国外	オウゴンカズラ	指定外来動植物
	国外	ヒメウキクサ	
	国内	マルバツユクサ	
	国外	ノハカタカラクサ（トキワツユクサ）	
	国外	ムラサキツユクサ	
	国外	アメリカコナギ	
	国外	ユリズイセン	

5 定着予防種 28種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
哺乳類	国外	アライグマ	特定外来生物
	国外	フイリマンダース	特定外来生物
鳥類	国外	コウライキジ	
	国外	ベニスズメ	
爬虫類	国外	カミツキガメ	特定外来生物
両生類	県内	ツチガエル	
汽水・淡水産魚類	国外	チャネルキャットフィッシュ	特定外来生物
昆虫類	国外	アカカミアリ	特定外来生物
	国外	ハヤトゲフシアリ	特定外来生物
その他節足動物	国外	タテジマフジツボ	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	コモチカワツボ	
	国外	シマメノウラネガイ	
維管束植物	国外	ノハラヒジキ	
	国外	ヒユ	
	国外	オオツメクサモドキ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	アツミゲシ	
	国外	カラメドハギ	
	国外	チャボタイゲキ	
	国外	アメリカミズユキノシタ	
	国外	アレチモウズイカ	
	国外	ヤセウツボ	
	国外	キンバイタウコギ	
	国外	コシカギク	
	国外	ミノボロモドキ	
	国外	オオスズメノカタビラ	
	国外	ショクヨウガヤツリ（キハマスゲ）	
	国外	ヒナウキクサ	
	国外	セイヨウアマナ	

6 産業管理種 30種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
汽水・淡水産魚類	国内	コイ	指定外来動植物
	国内	ゲンゴロウブナ	
	国内	ワカサギ	
	県内	ヤマメ	
	国外	タイリクスズキ	
	国内	ニジマス	
	国外	ドジョウ（大陸由来）	
	国内	ミナミメダカ （他地域型のミナミメダカおよび改良メダカ）	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	マシジミ	
	国外	チョウセンハマグリ	
	国外	シナハマグリ	
	国内	アサリ	
維管束植物	国外	オランダガラシ	
	国外	ハリエンジュ（ニセアカシア）	
	国外	ヨウシュハッカ	
	国外	マルバハッカ	
	国外	オランダハッカ	
	国外	モウソウチク	
	国外	ムラサキウマゴヤシ（アルファルファ）	
	国外	ムラサキツメクサ（アカクローバ）	
	国外	シロツメクサ（シロクローバ）	
	県内	コヌカグサ（レッドトップ）	
	国外	オートムギ（マカラスムギ）	
	国外	アフリカヒゲシバ（ローズグラス）	
	国外	カモガヤ（オーチャードグラス）	
	国外	オニウシノケグサ（トールフェスク）	
	国外	ホソムギ（ペレニアルライグラス）	
	国外	ネズミムギ（イタリアンライグラス）	
	国外	アメリカスズメノヒエ（バヒアグラス）	
	国外	ナピアグラス（ネピアグラス）	

7 その他外来種 232種類

生物群	由来別	種（類）	法的整理
鳥類	国外	コジュケイ	
爬虫類	国内	ヤエヤマシガメ	
	国外	ブラーミニメクラヘビ	
	国外	オガサワラヤモリ	
両生類	県内	ヒメアマガエル	
	県内	ヌマガエル	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
汽水・淡水産魚類	国外	ヨーロッパウナギ	
	国外	アリゲーターガー（通称）	
	国内	ニッポンバラタナゴ	
	国内	タモロコ	
	県内	モツゴ	
	国内	イトモロコ	
	国外	ハクレン	
	国外	ソウギョ	
	国内	ヤマトイワナ	
	国外	カワマス	
	国外	ブラウントラウト	
	国内	ヒメマス	
	国外	タイワンキンギョ	
	国内	ドジョウ（国内由来）	
	国外	チョウザメ類 （チョウザメ交配種もしくはシベリア チョウザメ）	
	国内	スゴモロコ	
海産魚類	国内/ 国外	ハタ科の人工交配種 （クエタマ・タマクエ）	
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	オカクチキレガイ	
	国外	ノハラナメクジ	
昆虫類	国内	コノハチョウ	
	国外	クロボシセセリ	
	県内	ヒメスギカミキリ	
	国外	ラミーカミキリ	
	県内	ヨツモンカメノコハムシ	
	県内	オキナワイチモンジハムシ	
	国内	バショウオサゾウムシ	
	国内	バナナツヤオサゾウムシ	
	国外	シバオサゾウムシ	
	国内	タイワンカブトムシ	
	県内	マメコガネ	
	県内	オキナワスジボタル	
	国外	カドフシニセハリアリ	
	国外	クビレハリアリ	
	国外	トカラウロコアリ	
	国外	フタイロヒメアリ	
	国外	シワヒメアリ	
	国外	キイロハダカアリ	
	県内	クマゼミ	
	国外	アオマツムシ	
	県内	リュウキュウアブラゼミ	
	国外	トガリアメンボ	
	国内	オキナワキンケビロウドカミキリ	
	国外	ムネアカハラビロカマキリ	
	国外	アワダチソウゲンバイ	
	国外	スキバドクガ	
	国内 （国 外の 可能 もあ り）	トウキョウヒメハンミョウ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
維管束植物	国内	コウヤワラビ	
	国外	ノゲイトウ	
	国外	ケイトウ	
	国外	ヤマゴボウ	
	国外	ヒナゲシ	
	国外	カラクサケマン	
	国外	カラシナ	
	国外	セイヨウアブラナ	
	国外	ササゲ	
	国外	ホンカンゾウ	
	国外	オニユリ	
	国外	タイワンホトトギス	
	国外	アオノリュウゼツラン	
	国外	スイセン	
	国外	ニワゼキショウ	
	国外	ルリニワゼキショウ（アイイロニワゼキショウ）	
	国外	オオニワゼキショウ	
	国外	ハナシュクシャ	
	国外	ダンドク	
	国外	ギョクチン	
	国外	ガランビトウロウソウ	
	国外	オオサンショウモ	
	国外	アマゾントチカガミ	
	国外	ミドリハカタカラクサ	
	国外	テリハバンジロウ	
	国外	アカザカズラ	
	国外	アフリカホウセンカ	
	国外	コケセンボンギクモドキ	
	国外	タテバチドメグサ	
	県内	スギナ	
	国外	ユメノシマガヤツリ	
	国外	ウスバスナゴショウ	
	国外	アレチノチャヒキ	
	不明	シラン	
	国外	ヒメヒオウギズイセン	
	国外	グラジオラス	
	国外	キバナニワゼキショウ	
	国外	ニセシマニシキソウ	
	国外	リュウキュウバショウ	
	国外	ベニバナシュクシャ	
	国外	ミナミコミカンソウ	
	国外	ニセコウガイゼキショウ	
	国外	ヒメミクリガヤツリ	
	国内	スナハマスゲ	
	県内	トダシバ	
	国外	カラスムギ	
	国外	オオモンツキガヤ	
	国外	ニセコバンソウ	
	国外	アメリカアワゴケ	
	国外	シマヒゲシバ	
	国外	ナガヒゲシバ	
	国外	ホウキヌカキビ	
	国外	オニササガヤ	
	国外	ムラサキノキビ	
	国外	スズメノナギナタ	
	国外	ナガバスズメノヒエ	
	不明	フタシベネズミノオ	
	国外	スリナムグラス	
	国外	シラユキゲシ	
	国外	イヌカミツレ	
	国外	トゲミノキツネノボタン	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	ブドウカズラ	
	国外	アフリカタヌキマメ	
	国外	ハイクサネム	
	国外	タイワンハギ	
	国外	ナヨクサフジ	
	国外	シナサワグルミ	
	国外	タイワンハンノキ	
	国外	シュウカイドウ	
	国外	スズメノトケイソウ	
	国外	カワリバトウダイ	
	国外	シマニシキソウ	
	国外	コバノニシキソウ	
	国外	アレチニシキソウ	
	国外	イリオモテニシキソウ	
	国外	シマミソハギ	
	国外	ネバリミソハギ	
	国外	ホザキカシグサ	
	国外	セイヨウミズユキノシタ	
	国外	ミナトマツヨイグサ	
	国外	ヤマモモソウ	
	国外	フトモモ	
	国外	フヨウ	
	国外	ヤノネボンテンカ	
	国外	ミツマタ	
	国外	ミチタネツケバナ	
	国外	ノミノツツリ	
	国外	ネバリノミノツツリ	
	国外	マンテマモドキ	
	国外	コハコベ	
	国外	オシロイバナ	
	国外	クルマバザクロソウ	
	国外	ルリハコベ	
	国外	タマザキフタバムグラ	
	国外	ブラジルハシカグサモドキ	
	国外	ヒロハフタバムグラ	
	国外	ナガバハリフタバ	
	国外	テリミノイヌホオズキ	
	国外	イヌホオズキ	
	国外	ナガボノウルシ	
	国内	ツタバウンラン	
	国外	ムラサキウンラン	
	国外	オオマツバウンラン	
	国外	ヤナギバルイラソウ	
	国外	ケブカルイラソウ	
	国外	リュウキュウアイ	
	国外	タイワンレンギョウ	
	国外	ダキバアレチハナガサ	
	国外	ボタンクサギ	
	国外	サケバキンチャクソウ	
	国外	ヒナキキョウソウ	
	国外	ヤリセンニチモドキ	
	国外	アオヨモギ	
	国外	ヒメイワヨモギ	
	国外	ホソバヨモギ	
	国外	タチスナジヨモギ	
	国内	ハマヨモギ	
	国外	ウラジロヒメイワヨモギ	
	国外	リョウトウヨモギ	
	国外	アイノコセンダングサ	
	国外	ハイシロノセンダングサ	

生物群	由来別	種（類）	法的整理
	国外	アイノゲシ	
	国外	ヒロハホウキギク	
	国内	カンサイタンポポ	
	国外	コトブキギク	
	国外	ヤドリフカノキ	
	国外	カミヤツデ	
	国外	イチハツ	
	国外	セイタカハマスゲ	
	国外	クロコヌカグサ	
	国外	ヒツパリガヤ	
	国外	ムラサキタカオススキ	
	国外	ヒメモロコシ	
	国外	ヒイラギトラノオ	
	国外	オトメフウロ	
	国外	マルバキンゴジカ	
	国外	コアカザ	
	国外	スズメナスビ	
	国外	タケトアゼナ	
	国外	オオバナイトタヌキモ	
	国外	ヒメセンニチモドキ	
	国外	チョウセンヨモギ	
	国外	マンシュウオトコヨモギ	
	国外	モリヨモギ	
	国外	アメリカオニアザミ	
	国外	エダウチチチコグサ	
	国外	フランスギク	
	国外	セイタカハハコグサ	
	国外	モンステラ	
	国外	センネンボク	
	国外	ムラサキオモト	
	国外	シマムラサキツユクサ	
	国外	クマタケラン	
	国外	ゲットウ	
	国外	ハナヤエムグラ	
	国外	マルバルコウ	
	国外	ホウオウチク	
	国内	オカメザサ	
	国外	キンチョウ	
	国外	デリス	
	国外	コバノセンナ	
	国外	ユキヤナギ	
	国外	マグワ	
	国外	カニンガムモクマオウ	
	国内	オオバヤシャブシ	
	国外	フクギ	
	国外	テリハボク	
	国外	ショウジョウソウモドキ	
	国外	ナンキンハゼ	
	国外	バンジロウ	
	国外	ウキツリボク	
	国外	パパイヤ	
	国外	ジュズサンゴ	
	国外	ツルムラサキ	
	国外	オキナアサガオ	
	国外	ミミバフサアサガオ	
	国外	ヤコウカ	
	国外	ソケイ	
	国外	ベニニガナ	
	国内	ハコネウツギ	

1 防除対策種 / 緊急防除種

生物群	由来別	種(類)	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	県内	ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	指定外来動植物	トカラ列島・喜界島・沖永良部島・与論島	本州・四国・九州	ネズミ駆除と毛皮目的で導入された。	在来生物の捕食。農業被害(鶏等)。平島、恵石島、与論島では、両生爬虫類を絶滅させている。	総合対策外来種。
	国外	ノヤギ	<i>Capra hircus</i>		黒島・屋久島・トカラ列島・奄美大島・加計呂麻島・徳之島	カフカス・アフガニスタンなどのアジア	15世紀頃に島で食肉用として飼育していたものが、管理放棄されて野生化した。	草木を食べ尽くして生態系を破壊する。農業被害や土壌流失をもたらしている。	総合対策外来種。小笠原諸島の一部では、ノヤギの排除に成功している。
	県内	ヤクシマザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>		口永良部島	屋久島	意図的な導入だが、詳細不明。	エラブオオコウモリとの競合。	防除が行われたが、未だに生息している状況にある。
	国外	ノネコ	<i>Felis catus</i>		県本土・奄美大島・徳之島	中東(リビアヤマネコ起源で家畜化)	鼠の駆除、愛玩用として飼育されていたものが遺棄されて野生化。	アマミノクロウサギなど希少動物の捕食。	総合対策外来種。奄美大島では、飼い猫登録義務の条例を施行(マイクロチップ装着や屋内飼育、放し飼いには避妊・去勢手術)。
鳥類	国外	インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	指定外来動植物	硫黄島・諏訪之瀬島	南アジア	リゾート企業により1970年代に導入された。	アマミヒメトカゲ等の学術的に貴重な種を捕食している。	総合対策外来種。
	国外	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	特定外来生物	島嶼を除く県内全域	中国大陸	九州地域では、1980年代に観賞用のものが逸出し、野生化したといわれている。	同じ環境に生息するウグイスの繁殖成功率を下げるおそれが指摘されている。	総合対策外来種。
	国外	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>		川内川・蘭牟田池・住吉池(始良市)	ヨーロッパ西部～中国大陸中部	愛玩・観賞用に飼育されていたものが管理不備により逸出し、分散していった。	個体数が増加すると生態系のバランスを壊すおそれがある。	総合対策外来種。
爬虫類	県内	オキナワキノボリトカゲ	<i>Diploderma polygonatum polygonatum</i>	指定外来動植物	指宿市・屋久島	奄美群島・沖縄諸島	観葉植物などに紛れての侵入、ペットとしての流通と購入後の逸出、遺棄等。	在来種のトカゲと異なるタイプの捕食者であり、捕食を通じた在来節足動物相、生態系、食物網の変質。	総合対策外来種(指宿)。屋久島での確認は2010年代であり、すでに繁殖集団として定着。目撃範囲は限られているが、今後の拡散が懸念される。
	国外	アカミミガメ(ミシシippiaアカミミガメ)	<i>Trachemys scripta elegans</i>	特定外来生物(条件付き)	県本土・種子屋久・喜界島・奄美群島	北米大陸	ペットとして飼われる個体の遺棄。縁日等での売れ残った幼体の大量遺棄(喜界島)。	餌となる生物群集、特に水生植物への影響、在来カメ類の駆逐。	総合対策外来種。
	国外	ホオグロヤモリ	<i>Hemidactylus frenatus</i>		奄美群島・宝島	東南アジア	船の積み荷などに紛れての非意図的導入。	他のヤモリ類の競争的排除、ヤモリ幼体の捕食。	
両生類	国外	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	特定外来生物	与論島・徳之島	フィリピン	船の積み荷などに紛れて導入された。	捕食を通じた在来節足動物相への影響。	与論島ではすでに島の全域に広がった。徳之島では国等と連携して防除を実施。
汽水・淡水産魚類	国外	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	特定外来生物	県本土各地	北米	日本には1960年に、食用として導入された。その後、ダム湖を中心に放流された。	肉食性の強い雑食であり、水生植物、水生昆虫、底生動物、魚類、両生類等を多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	総合対策外来種。
	国外	オオクチバス	<i>Micropyrus salmoides</i>	特定外来生物	県本土各地・種子島	北米	日本には1925年に、食用および釣りの対象魚として導入された。その後、釣りの対象魚として、ダム湖を中心に放流された。	肉食性であり、魚類、両生類等を多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	総合対策外来種。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
昆虫類	国内	アリモドギゾウムシ	<i>Cylas formicarius</i>	植物防疫法規制対象	トカラ列島以南	小笠原・アフリカ起源？	意図的な導入と思われる。	サツマイモを食害する。グンバイヒルガオなど野生のヒルガオ科も利用するために、防除が難しい。	国内では1903年に沖縄県で初確認。県内では過去に、屋久島、種子島、開聞町、山川町、鹿児島市、甕島で発生し、その後根絶。1915年与論島、1931年奄美大島、1933年にはトカラ列島まで北上。
	国内	イモゾウムシ	<i>Euscepes postfasciatus</i>	植物防疫法規制対象	奄美群島	沖縄島・カリブ海島嶼域	意図的な導入と思われる。	サツマイモを食害する。	国内では1947年（S22年）沖縄県与勝半島で初確認。現在は奄美大島以南に分布。過去に屋久島1997年、指宿市2008年でも発生し、根絶。
	国外	アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>	特定外来生物	志布志市	南アメリカ	建築資材などに紛れ込んで侵入した可能性がある。	家屋害虫、農業害虫、生態系の攪乱者として、様々な被害をもたらす。	2023年に志布志市の住宅地で多数が確認された。日本国内では1993年に広島県（廿日市市）で最初に発見され、その後兵庫県、山口県、愛知県、神奈川県、岐阜県、大阪府、奈良県、三重県、京都府、静岡県、徳島県、東京都、岡山県、鹿児島県で確認。
その他節足動物	国外	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	オーストラリア～南太平洋諸島	物流に乗って非意図的に導入された。	ヒトが咬まれると死亡することがある。	総合対策外来種。2008年12月確認。
	国外	ハイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	アフリカ	物流に乗って非意図的に導入された可能性が高い。	ヒトが咬まれると死亡することがある。	総合対策外来種。与論島2001年、西之表市2006年、徳之島2015年7月確認。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アフリカマイマイ	<i>Achatina (Lissachatina) fulica</i>	植物防疫法規制対象	鹿児島市（七ツ島）・出水市（高尾野町）・指宿市（東方）・奄美群島	東アフリカ	食用で意図的に導入され、園芸植物に付着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	総合対策外来種。陸産。
	国外	ラプラタリンゴガイ	<i>Pomacea maculata</i>	植物防疫法規制対象	県内全域（奄美群島は不明）	アルゼンチン	食用で意図的に導入され、園芸植物に付着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。
	国外	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>	植物防疫法規制対象	離島を含む県内全域	アルゼンチン	食用で意図的に導入され、園芸植物に付着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。
その他無脊椎動物	国外	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	<i>Platydemus manokwari</i>	特定外来生物	奄美大島・喜界島・徳之島	ニューギニア	園芸植物に種着。	固有種陸産貝類の捕食・絶滅。	総合対策外来種。陸産。
維管束植物	国内	アカギ	<i>Bischofia javanica</i>		南大隅町・肝付町・屋久島・トカラ列島・奄美群島	琉球（沖縄島・尖閣）・中国・熱帯アジア・オーストラリア・ポリネシア	栽培されていたものが逸出した。	在来種を駆逐。生態系に影響（ギャップの占拠）。	他感作用あり。
	国外	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>	指定外来動植物	離島を含む県内各地	南米（アルゼンチン周辺）	栽培されていたものが逸出した。	在来種と競合。通水障害。船の通行や漁業妨害。生態系に影響（水面下を被陰）。	総合対策外来種。水生（浮遊性）。観賞用。家畜飼料。栄養繁殖（走出枝による）。明治時代に導入、1972年野生化。
	国外	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	特定外来生物	奄美大島	中南米	非意図的導入。	在来種と競合。	

2 防除対策種 / 重要防除種

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	ノイヌ	<i>Canis familiaris</i>		県本土・奄美大島・徳之島	ユーラシア（オオカミ起源で家畜化）	ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化。	アマミノクロウサギなど希少動物の捕食。	総合対策外来種。ノネコと同様の対処が必要である。
	県内	ニホンテン	<i>Martes melampus</i>		口之島	本州・四国・九州	ネズミ駆除と毛皮目的で導入された可能性がある。	農業被害や在来種の捕食。	口之島ではイタチが1900年代に導入されている。
	県内	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	指定外来動植物：キュウシュウジカ	阿久根大島・臥蛇島	馬毛島（阿久根大島と臥蛇島に導入されたものに限る）	阿久根大島は1945年、観光目的による導入。	臥蛇島では、採餌による植生被害がでている。	種としての分布は、中国大陸・台湾・日本列島。
	県内	ホンドタヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	指定外来動植物	屋久島	東アジア・日本	1980年代に導入された。	農業被害や在来種の捕食、人畜共通感染症における媒介。	総合対策外来種。屋久島では、低地全体に生息域を広げている。
	県内	イノシシ（イノブタ）	<i>Sus scrofa leucomystax</i>	指定外来動植物	沖永良部島	北アフリカの一部・ユーラシア・日本	狩猟目的の導入、飼育個体の野生化。	農林業被害（食害、踏み倒し、掘り起こし）、人畜共通感染症における媒介。	総合対策外来種。2001年までに210頭が駆除された。イノブタまたはニホンイノシシと考えられる。
鳥類	県内	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		トカラ列島・奄美群島	日本本土	トカラ列島では1971年と1972年、他の島は1974年～1990年に狩猟を目的に放鳥された。	農作物の食害が報告されている。	
	国外	シマキンバラ	<i>Lonchura punctulata topela</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島	東南アジア・南アジア	沖縄諸島から北上し、分布を拡大してきた可能性がある。	原産地、海外の導入先では農作物の被害が報告されている。	奄美群島でも繁殖が確認されている。
	国外	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	特定外来生物	霧島山系・栗野岳・南さつま市・出水市	東アジア・東南アジア	宮崎県や熊本県からの分布拡大と考えられる。本県での繁殖は未確認。	今後、ソウシチョウ同様に県内全域での分布拡大が予想され、生態系への影響が懸念される。	総合対策外来種。これまで、鹿児島県は九州で唯一本種が侵入していないとされてきた。全県的な調査の必要あり。
爬虫類	県内	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	指定外来動植物	屋久島・奄美大島・喜界島・徳之島	日本本土・中国大陸	養殖場からの逸出、遺棄。	養殖個体による在来野生個体群への遺伝的攪乱。捕食を通じた無脊椎動物相、魚類相への悪影響。	総合対策外来種（琉球列島）。種子島のものは在来の可能性がある。
	県内	ミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>		大隅諸島・県本土（海岸部周辺）	南九州・琉球列島・台湾・大陸中国東部	船の積荷などに紛れての非意図的導入。	ヤクヤモリやニシヤモリとの交雑、遺伝浸透、駆逐。	屋久島は外来の可能性が高く、それ以外の集団のうち、少なくとも一部は外来の可能性あり。ただし遺伝的特性にもとづく慎重な検討が必要。
両生類	国外	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	特定外来生物	県本土・奄美大島・与路島・徳之島・沖永良部島	北米	食用として輸入し、養殖されていた個体の遺棄、逸脱。	昆虫類、両生類、甲殻類など餌となる生物群集への影響	総合対策外来種。冬季に幼生の行動が鈍るため、この時期の除去が効果的とされる。
汽水・淡水産魚類	県内	ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.		奄美大島	日本列島全域	古くから食用として放流されてきた。	在来のフナ属の1種との交雑や競合が懸念される。	奄美大島のフナ属の1種は、環境省RDBの絶滅危惧ⅠA類、鹿児島県RDBの絶滅危惧Ⅰ類。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	北米	日本には1913年と1916年に蚊の駆除を目的に導入された。1970年代に急速に広まった。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。奄美大島ではミナミメダカを消滅させた例がある。	総合対策外来種。
	国外	ジルティラピア	<i>Tilapia zillii</i>	指定外来動植物	天降川・池田湖・奄美大島・徳之島・沖永良部島	アフリカ	日本には1962年に、ナイルティラピアとともに導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	雑食性で繁殖力が強く、本種が優占種となり、生物多様性を喪失した水域がある。	総合対策外来種。ティラピア類の中では比較的低温に強く、温泉地以外にも湧水の豊富な河川や湖沼、奄美群島等で繁殖可能である。
昆虫類	国外	トコジラミ	<i>Cimex lectularius</i>		詳細不明（全世界的分布）	不明	人間に付着して移動し、ホテルなどで発生する。	人体から吸血し、かゆみをひきおこすが、病原菌の媒介は知られていない	別名ナンキンムシ。近年、国内での発見・被害件数が増加しており、その原因として、海外からの旅行者の荷物にまぎれての持ち込みが問題になっている。
	県内	ミカンキジラミ	<i>Diaphorina citri</i>		屋久島	奄美大島以南・東南アジア・中近東	人為的な導入と思われる。	ゲッキツを初めとする柑橘類の樹液を吸い、枝などを枯死させる。カンキツグリーニング病を媒介する。	国内では奄美大島以南の島々に分布。2006年に指宿市で発生し、2014年に終息。
	国外	イエシロアリ	<i>Coptotermes formosanus</i>		県本土～奄美群島	中国大陸または台湾	不明。	木造家屋を食害する著名な害虫。	野外ではヤマトシロアリが優占する。
	国外	チャバネゴキブリ	<i>Blattella germanica</i>		離島を含む県内全域	アフリカ	日本への侵入年代は相当古いと考えられるが、現在も船の荷物などで持ち込まれていると思われる。	冬でも暖房のいきとどいた病院やビルに生息する不快昆虫。食中毒をおこす微生物を運搬する衛生害虫。	重要な家屋害虫。屋外には生息しない。
	県内	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>		奄美群島	北海道～種子屋久まで	意図的な導入と思われる。	ミカン類の生産木を加害して枯らす。	各種樹木を食害する。オキナワゴマダラカミキリと交雑し、加害対象が広がった。鹿大農学部で研究中。
	県内	マツノマダラカミキリ	<i>Monochamus alternatus</i>		奄美群島	東アジア・本州～九州	意図的な導入。	リュウキュウマツを食害し、広範囲にわたって枯死させる。	倒木や崖崩れなど、影響が大きい。
	国外	ヤシオオオサゾウムシ	<i>Rhynchophorus ferrugineus</i>		県本土	東南アジア	意図的な導入と思われる。	フェニックスなどのヤシを食害し、枯死させる。	樹幹注入剤を使用するなど、防除には負担が大きい。
	国外	デイゴヒメコバチ	<i>Quadrastichus erythrinae</i>		奄美群島	アフリカ	直近の生息地からは少なくとも部分的には自然飛来。	デイゴの若葉や茎に産卵し虫こぶを形成する。樹勢を弱らせ、しばしば枯死を招く。	2004年にシンガポール産の標本をもとにして記載され、2005年に沖縄で国内初確認。赤道を中心に世界的に分布を拡大中。2006年に奄美大島、翌年喜界島で確認。
	国外	イエヒメアリ	<i>Monomorium pharaonis</i>		県本土・屋久島・宝島・小宝島・奄美大島・徳之島	熱帯アジア（?）	不明。	冬期でも暖かいマンション、病院などに住みつき不快害虫となるほか、電気製品などに営巣し、火災の原因となる。自然生態系への影響は軽微。	トカラ列島以北では家屋内に生息。
	国外	バショウコクゾウムシ	<i>Pollytus mellerboyrgi</i>		奄美群島	熱帯アジア・ハワイ・マダガスカル	意図的な導入と思われる。	バナナの害虫。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ソテツシロカイガラムシ（アウラカスピス ヤスマツイ）	<i>Aulacaspia yasumatsui</i>		奄美群島	東南アジア	ソテツ科植物や人、動物に付着しての移動、風による飛散などによると思われる。	ソテツ科植物に規制し、枯死させる。	雌成虫は殻で覆われ移動できないが、雄成虫は羽を持ち飛ぶことが可能。
	国外	タイワンゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora macularia</i>		奄美群島	台湾	意図的な導入と思われる。	ミカン類の生産木を加害して枯らす。オオシマゴマダラカミキリと交雑。	沖縄本島ではゴマダラカミキリ、オオシマゴマダラカミキリと交雑し、種の判別困難。
その他節足動物	国外	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	特定外来生物（条件付き）	県本土・甌島・奄美大島（小湊）・徳之島・沖永良部島	北米南部	1927年にウシガエルの餌として神奈川県に導入され、その一部が逸出して全国に広まった。	他の水生動物をどん欲に捕食し個体群に打撃を与え、食物連鎖を通じて水辺環境を大きく改変し、生物多様性を著しく低下させる。	総合対策外来種。徳之島2017年
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	アシヒダナメクジ	<i>Laevicaulis alte</i>		奄美群島	アフリカ	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	ソメワケダワラガイ	<i>Indoenna bicolor</i>		離島を含む県内全域	インド・東南アジア	園芸植物に種着。	固有種陸産貝類の捕食・絶滅。	陸産。
	国外	コウラナメクジ（キイロナメクジ）	<i>Limax flavus</i>		離島を含む県内全域	ヨーロッパ	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	インドヒラマキガイ	<i>Indoplanorbis exustus</i>		離島を含む県内全域	インド	観賞用が逸出	農作物への被害、固有種貝類との競合。	淡水産。
	県内	ヌノメカワニナ	<i>Melanoides tuberculata</i>		国分平野	奄美群島？	不明。	固有種貝類との競合。	淡水産。原産地では準絶滅危惧種。
	国外	タイワンシジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>	指定外来動植物	本土・奄美大島（？）	台湾・中国	意図的放流・食用品の逸出。	固有種貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。生息現況不明。
維管束植物	国外	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	特定外来生物	鹿屋市・奄美大島	中米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	通水障害。在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地（水田）の害草。	総合対策外来種。湿生（乾燥耐性あり）。栄養繁殖（基部が匍匐し発根）。観賞用。カニ養殖に利用。1989兵庫県で確認。
	国外	セイヨウミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i>		種子島・屋久島	ユーラシア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	耐寒性あり（山地植生にも影響？）
	国外	ナンバンアカバナアズキ	<i>Macroptilium lathyroides</i>		奄美群島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウマゴヤシ	<i>Medicago polymorpha</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ南部・地中海地方	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	クスダマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>		甌島・種子島・奄美大島・徳之島	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1943年に神奈川県で確認。
	国外	コメツブウマゴヤシ	<i>Medicago lupulina</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草（随伴混入もあり）。
	国外	ツノクサネム	<i>Sesbania cannabina</i>		与論島	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカツノクサネム	<i>Sesbania exaltata</i>		奄美大島	北・中米	非意図的導入（輸入穀物に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	戦後に国内で確認。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>		県本土各地（薩摩半島）・甕島・黒島・種子島・屋久島・諏訪瀬島・沖永良部島	ヨーロッパ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	大正時代に国内で確認。
	国外	ベニバナツメクサ	<i>Trifolium incarnatum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・北アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。
	国内	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>		伊佐市・阿久根市・南大隅町	カザフスタン・シベリア・極東ロシア・日本・朝鮮・中国・モンゴル	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホソバヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> var. <i>angustifolia</i>		枕崎市・薩摩川内市・奄美大島	ユーラシア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ケツルアズキ	<i>Vigna mungo</i>		鹿児島市	インド	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ツルアズキ	<i>Vigna umbellata</i>		奄美大島・伊佐市・阿久根市	インド～東南アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ウスゲオオバナミズキンバイ	<i>Ludwigia grandiflora</i> susp. <i>hexapetala</i>	特定外来生物	鹿屋市・大崎町・東串良町・肝付町	中南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	希少種の駆逐。	総合対策外来種。繁殖力旺盛。機械化阻害。
	国外	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	水生の在来種を駆逐。	総合対策外来種。観賞用。緑化用。ビオトープ用。水質浄化用。1920年、兵庫県で野生化。国内は雌株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖（切れ藻、根茎による）。
	国外	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>		離島を含む県内各地	北米？	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> var. <i>leiophylla</i>		鹿児島市	北米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。観賞用。明治時代に国内導入。種子繁殖。栄養繁殖（根茎による）。
	国外	イガトキンソウ（シマトキンソウ）	<i>Soliva anthemifolia</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1910年に国内で確認。
	国外	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	特定外来生物	離島を含む県内各地に点在	熱帯（南アフリカ？）	栽培逸出。	在来種と競合。通水障害。生態系に影響（水中の酸素欠乏、水面下を被陰）。	総合対策外来種。水生。観賞用（アクアリウムプランツ）。ビオトープ用。水質浄化用。1920年より輸入、1880年代沖縄で逸出、1990年代関東以西で定着。繁殖力旺盛。栄養繁殖（根茎、越冬芽、走出枝による）。
	国外	ヨシススキ	<i>Tripidium arundinaceum</i>		県本土各地・種子島・奄美大島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ツルヒヨドリ（コバナツルギク）	<i>Mikania micrantha</i>	特定外来生物	奄美大島	中南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	特定外来生物	徳之島	ヨーロッパ～アジア北部	不明。	在来種のカワヂシャとの交雑。	

3 防除対策種 / 一般防除種

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>		県本土	東南アジア・中国・台湾	毛皮獣として導入された可能性もあるが、不明。	人家への侵入（糞など）や農業被害。	総合対策外来種。分布域は極めて限られているようである。
	国外	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>		県本土	シベリア・中国・東南アジア	毛皮獣として導入、遺棄されて分布拡大。	ニホンイタチとの競合、希少種への捕食圧。農業被害。家屋への侵入。	総合対策外来種。ニホンイタチと似ていて広域に分布しているため、外来種としての認識が希薄である。
	国外	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		離島を含む県内各地	ユーラシア・アフリカ	侵入経路は不明であるが、交易などで導入。	農作物への被害、生活環境の悪化。	総合対策外来種。生息域は、家屋、水田、畑、積み藁、土手、草地、河川敷、荒地と広域に及ぶ。
	国外	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>		鹿児島県（島嶼を含む）	インドシナ半島	侵入経路は不明であるが、交易などの非意図的導入の可能性がある。	植物・海鳥・ウミガメ卵などの捕食。他種との競合。農業被害。人獣共通感染症における媒介。	総合対策外来種。海外では、島嶼において根絶に成功した事例が多い。
	国外	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		鹿児島県（島嶼を含む）	シベリア南東部・中国北部	侵入経路は不明であるが、交易などの非意図的導入の可能性がある。	在来生物の捕食、海鳥への繁殖阻害、農業被害。人獣共通感染症における媒介。	総合対策外来種。都市部の下水、台所の流し、ゴミ捨て場、地下街、食品倉庫など、水を摂取できる湿った場所を好む。
	国外	アナウサギ	<i>Oryctolagus cuniculus</i>		宇治群島家島・トカラ列島横当島	スペイン	放獣されたものであるが、目的は不明。	植生への影響及び土壌浸食。	総合対策外来種。石川県七ツ島大島では、殺処分と裸地化した土壌の飛散防止で、植生復元に効果をあげる。
	国外	ジャコウネズミ	<i>Suncus murinus</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島・鹿児島市？	東南アジア	交易などによる随伴導入。沖縄県から導入された可能性がある。	貯蔵穀物の被害が予想されている。	市街地の民家の床下、農耕地周辺や河畔の雑木林などに生息している。
爬虫類	国外	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	指定外来動植物	県本土・奄美大島・喜界島・沖永良部島	中国大陸	ペットとして飼われる個体の遺棄、縁日等での売れ残った幼体の大量遺棄（喜界島）	固有種ニホンシガメとの交雑	総合対策外来種。沖永良部での確認個体はニホンシガメとの雑種と考えられる。
	国外	タシロヤモリ	<i>Hemidactylus bowringii</i>		奄美大島、与路島、請島、喜界島	中国東部、南部、台湾	物資輸送に伴う移入・定着	不明	奄美諸島内の市街地では、より新しく北上した外来種ホオグロヤモリに圧迫されつつあると思われる
	県内	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>		口之島	本州・四国・九州と周辺島嶼	100年以上前、口永良部島からの導入とされる。	固有種クチノシマトカゲの捕食可能性。	
	国外	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	指定外来動植物	さつま町・種子島	南アフリカ	飼育個体の逸出	捕食による、水生昆虫をはじめとする水生生物への影響	総合対策外来種。2011年度に北薩広域公園内の自然観察池で成体及び幼生が確認されたが、防除が行われた後は確認されていない。2021年度には、種子島で成体及び幼生が確認された。
	国外	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		県本土・屋久島・上甕島	大陸中国の東部	船の積み荷などに紛れて非意図的に導入、すでに定着し、高密度に達している地域からの陸路での侵入。	交雑を通じた、他の <i>Gekko</i> 属ヤモリへの遺伝浸透、在来種の好適な餌場や越冬場所からの駆逐。	屋久島は1個体の記録のみで、定着はしていない模様である。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
汽水・淡水産魚類	国外	グリーンソードテール	<i>Xiphophorus hellerii</i>	指定外来動植物	奄美大島	中米（メキシコ南部～グアテマラ）	観賞用の逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。	奄美大島では、2011年以降定着が確認されている。
	国外	サザンブラティフィッシュ	<i>Xiphophorus maculatus</i>		種子島・沖永良部島	中米～南米	観賞用の逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。	
	国外	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>		指宿市周辺・天降川・喜界島・沖永良部島	中米	日本には昭和初期に観賞用として導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食する。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。	総合対策外来種。温泉の流入する河川と琉球列島の一部の止水域で定着している。
	国内	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>		川内川水系	濃尾平野以西の本州・四国・九州北西部	不明。観賞魚として流通しており、飼育個体の放流に由来すると考えられる。もしくは何らかの放流種苗に混入して侵入した可能性がある。	不明。川内川水系には在来のタナゴ類は生息しておらず、産卵床である二枚貝をめぐる競合は懸念されない。由来が不明であり、県内の自然分布域に侵入しないよう注視する必要がある。	
	国内	ギギ	<i>Pelteobagrus nudiceps</i>		川内川水系	近畿地方以西の本州・四国・九州北東部	不明。何らかの放流種苗に混入して侵入した可能性がある。	全長30cm程になり、魚類や甲殻類、水生昆虫を捕食する。餌や生息空間をめぐり、在来のアリアケギバチとの競合が懸念される。	
昆虫類	国外	サツマイモノメイガ	<i>Omphisa anastomosalis</i>	植物防疫法規制対象	トカラ列島以南	東南アジア（?）	導入または飛来と思われる。	サツマイモを食害する。	国内では1941年に波照間島で初確認。
	県内	ホシベニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i>		奄美群島	本州～種子島・屋久島	意図的な導入と思われる。	クスノキ科を食害。自然生態系に与える影響は不明。	喜界島では本種の加害による自生のタブの枯死が多く見られた。
	県内	クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>		奄美群島	本州・四国・九州	意図的な導入と思われる。	クワなどの樹木を食害。自然生態系に与える影響は不明。	奄美に分布していた別種オキナクワカミキリに置き換わったと思われる。
	国外	アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>		県本土・奄美群島	北米	意図的な導入と思われる。	マメ科植物を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国内	シロスジオサゾウムシ	<i>Rhabdoscelus lineatocollis</i>		奄美群島	沖縄以南	意図的な導入と思われる。	サトウキビ（幼虫、成虫）、ヤシ（成虫）などを食害する。。	
	国外	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>		県本土	中国	侵入経路は不明であるが、交易などの非意図的導入の可能性はある。	クスノキの吸汁被害	中国から関西に侵入、その後分布を拡大したと考えられる。被害が激しい立木では樹勢低下が懸念される。
	国外	シロテンハナムグリ台湾亜種（サカイシロテンハナムグリ）	<i>Protaetia orientalis sakaii</i>		奄美大島	台湾・尖閣諸島	植木などに随伴して非意図的に持ち込まれたと考えられている。	在来ハナムグリ類（オオシマアオハナムグリ、リュウキュウツヤハナムグリ、リュウキュウオオハナムグリ、イシガキシロテンハナムグリなど）、在来の別亜種（口永良部島・トカラ列島のシロテンハナムグリ）と競合・交雑する可能性が考えられる。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
その他節足動物	国外	ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>		県本土・屋久島・種子島・奄美群島	台湾	土の移動による導入と思われる。	不被害虫であるが、自然生態系への影響は不明。農薬散布により他の土壌性小動物や、歩行性昆虫など他の節足動物への悪影響が懸念される。	総合対策外来種。1953年沖縄、1991年徳之島、1992年奄美大島、1999年薩摩半島、2002年屋久島で確認。2021年種子島（西之表市）。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	オオトカラノミギセル	<i>Metazaptyx saccatibasis</i>		悪石島	中之島・ロ之島（固有種）	ロ之島か中之島から、ゴミの移動に伴い導入され、ゴミ捨て場に定着。	固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	県内	アズキガイ	<i>Pupinella (Pupinopsis) rufa rufa</i>		奄美大島	関東以西	ゴミの移動で市街地に定着。	固有種陸産貝類との競合。	陸産。日本固有種。
	国外	トクサオカチョウジガイ	<i>Allopeas javanicum</i>		離島を含む県内全域	東南アジア	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	チャコウラナメクジ	<i>Limax marginatus</i>	植物防疫法規制対象	離島を含む県内全域	ヨーロッパ	園芸植物に種着。	寄生虫の感染、農作物への被害、固有種陸産貝類との競合。	陸産。
	国外	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>		離島を含む県内全域	インド・東南アジア	水草に付着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	淡水産。
	国外	ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>		県本土	北米	水草に付着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	総合対策外来種。淡水産。淡水域に広く分布するも、現況不明。
維管束植物	国外	外来アゾラ類（アゾラ・クリスタタを含む）	<i>Azolla spp. (Azolla cristataを含む)</i>	特定外来生物（ <i>Azolla cristata</i> に限る）	詳細不明	南北米・ヨーロッパ・アジア・オセアニア・アフリカ	栽培逸出（合鴨農法の飼料緑肥用？）。非意図的導入。近隣地域などから侵入（水鳥に付着）。	在来種と生育環境が競合。生態系に影響（水面下を被陰）。富栄養化。	総合対策外来種。シダ。水生（浮遊性）。徳島県では栽培ハスに随伴。藍色細菌の共生により窒素固定する。県内にはアゾラ類の専門家がおらず、詳細な同定が行われていない。
	国外	トクサバモクマオウ	<i>Casuarina equisetifolia</i>		鹿児島市・南さつま市・南大隅町・離島各地	オーストラリア	栽培逸出	在来種と競合。	
	国外	ムントリナデシコ	<i>Silene armeria</i>		鹿児島市・鹿屋市・霧島市・東串良町・肝付町・屋久島	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。江戸末期に国内導入。
	国外	ハゴロモモ	<i>Cabomba caroliniana</i>		薩摩川内市	北米東南部	栽培逸出。	通水障害。水生の在来種と競合。生態系に影響（水生生物の生育環境の改変）。	総合対策外来種。沈水生。観賞用（アクラリウムプランツ）。1929年、東京の植物園で栽培。1950年、東京で野生化。栄養繁殖（切れ藻による）。
	国外	ソバカズラ	<i>Fallopia convolvulus</i>		鹿児島市	ヨーロッパ～西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。多種を被陰。明治時代に国内で確認。
	国外	ギンゴウカン（ギンネム）	<i>Leucaena leucocephala</i>		指宿市・南大隅町・種子島・屋久島・諏訪之瀬島・悪石島・宝島・奄美群島	中央～南米	栽培逸出。近隣地域から侵入など。	在来種を駆逐。生態系に影響（遷移の停止）。	総合対策外来種。緑化。緑肥。飼料。砂防。薪炭。パルプ用材。江戸末期に小笠原、明治時代に沖縄に導入。他感作用あり。萌芽再生する。
	国外	トウゴマ	<i>Ricinus communis</i>		指宿市・志布志市・南大隅町・離島各地	熱帯アフリカ北東部	栽培逸出。	人間の健康被害	有毒（種子）。薬用。工業利用（蓖麻子油）。
	県内	アブラギリ	<i>Vernicia cordata</i>		離島を含む県内各地（徳之島以北）	中国・南日本？	栽培逸出。	在来種と競合。	工業用（桐油）。国内外来種の可能性あり。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>		離島を含む県内各地	インド	栽培逸出。非意図的導入（輸入飼料や豆類に混入）。	在来種と競合。機械による農作業を妨害（繊維が絡まる）。	繊維用。1930年以前に国内導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。異臭あり。飼料混入により牛乳に臭いがつく。観賞用の近縁種あり。
	国外	セイヨウヒルガオ	<i>Convolvulus arvensis</i>		宝島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域ないから侵入。	在来種と競合。駆除しにくい耕作地雑草。	つる性。戦前に国内導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。栄養繁殖（地下茎による）。
	国外	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>	指定外来動植物	離島を含む県内各地	北米	非意図的導入（輸入穀物、緑化用種子に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来種の生育阻害。農作物の生育阻害。	総合対策外来種。寄生性。つる性。1970年、東京都で確認。宿主：キク、ウリ、ナス、シソ、ヒルガオ、キョウチクトウ、セリ、アオイ、アブラナ、ヒユ、アカザ、ツルムラサキ、ユリ、イネ各科。
	国外	コダチチョウセンアサガオ	<i>Brugmansia × candida</i>	指定外来動植物	鹿屋市・出水市・南さつま市・長島町・南大隅町・下甕島・屋久島・口永良部島・奄美大島	中南米	栽培逸出。	人間の健康被害（中毒）。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	チョウセンアサガオ	<i>Datura metel</i>		離島を含む県内各地に点在	熱帯アメリカ？・熱帯アジア？	栽培逸出。	人間の健康被害（中毒）。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	キダチチョウセンアサガオ（オオバナチョウセンアサガオ）	<i>Brugmansia suaveolens</i>	指定外来動植物	鹿児島市・指宿市・南さつま市・南大隅町・肝付町・黒島・種子島・屋久島・トカラ列島・奄美群島	中南米	栽培逸出。	人間の健康被害（中毒）。	総合対策外来種。有毒。観賞用。他感作用あり。
	国外	ヨウシュチョウセンアサガオ（シロバナチョウセンアサガオ）	<i>Datura stramonium</i> var. <i>chalybea</i>		鹿児島市	不明（アメリカ？）	栽培逸出。	人間の健康被害（中毒）。	総合対策外来種。有毒。観賞用。明治時代に導入。他感作用あり。
	国外	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間の健康被害。	
	国外	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i>		県本土各地・種子島・屋久島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	繁殖力旺盛。
	国外	オオスズメウリ	<i>Thladiantha dubia</i>		徳之島	中国・朝鮮	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間の健康被害（花粉症）。在来種と競合。	1880年、関東で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。除草剤耐性型あり。
	国外	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		県本土各地・種子島・奄美大島	北米	非意図的導入（輸入飼料や豆類に混入、土石に混入）。近隣地域などから侵入。	人間の健康被害（花粉症）。在来種と競合。他種を被陰。	総合対策外来種。1952年、静岡県千葉県で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。
	国外	ハリビユ	<i>Amaranthus spinosus</i>		県北を除く各地	中南米	非意図的導入（輸入飼料への随伴、家畜排泄物への種子混入）	家畜の健康被害（棘による採食妨害、中毒）。繁殖干渉。耕作地（飼料畑）強害草。	明治時代に沖縄で確認。葉柄基部と花序に棘あり。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。栄養繁殖（植物片による）。近縁種と交雑する。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ケシ	<i>Papaver somniferum</i>		県内各地に散在	東ヨーロッパ	栽培逸出。	人間の健康被害。	麻薬取締法により栽培禁止。薬用。食用（種子）
	国外	カラクサナズナ （カラクサガラシ）	<i>Lepidium didymum</i>		県本土各地・種子島・口永良部島・宝島・奄美群島	南米またはユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	臭気あり。飼料混入により牛乳に臭いがつく。
	国外	タチアワユキセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>		鹿児島市・奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地（サトウキビ畑）の害草。	総合対策外来種。1944年～1948年に国内導入（観賞用）。繁殖力旺盛（動物散布性の瘦果）。
	国外	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	特定外来生物	県本土各地・種子島・屋久島・口永良部島・奄美大島・喜界島・徳之島	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。生態系に影響（景観の改変）。	総合対策外来種。観賞用。緑化用（ワイルドフラワーミックスとして）。1880年代に国内導入。繁殖力旺盛。
	国外	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	特定外来生物	県本土各地	マダガスカル	非意図的導入（シロツメクサ種子に混入？）。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。家畜の健康被害（中毒）。	総合対策外来種。有毒。1979年、徳島県で確認。繁殖力旺盛。
	国外	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害（花粉症）？ 生態系に影響（多種を被陰）。	総合対策外来種。観賞用。養蜂（蜜源）。1897年、国内導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。栄養繁殖（根茎による）。他感作用あり。
	国外	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i>	指定外来動植物	県本土各地・種子島・屋久島・徳之島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。人間の健康被害（刺による怪我）。	瘦果に刺あり。1930年、和歌山県で確認。
	国外	ヤナギバヒメジョオン	<i>Stenactis pseudo-annuus</i>		湧水町・トカラ列島・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	無融合生殖する。
	国外	ヘラバヒメジョオン	<i>Stenactis strigosus</i>		県本土各地・屋久島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	無融合生殖する。
	国外	オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		離島を含む県内各地	北米（メキシコ）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	家畜の健康被害（中毒）。	総合対策外来種。有毒。繁殖力旺盛（果実に刺あり。動物散布）。1929岡山県で確認。
	国外	オオカナダモ	<i>Anacharis canadensis</i>	指定外来動植物	県本土各地	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。水生の在来種を駆逐。通水障害。船の通行妨害。	総合対策外来種。水生（沈水性）。観賞用（アクアリウムプランツ）。教材用。1940年、山口県で確認。国内には雄株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖（切れ藻、殖芽による）。
	国外	シナダレスズメグヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		離島を含む県内各地	南アフリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	河原の在来種を駆逐。生態系に影響（海浜の草原化による景観改変）。砂の堆積促進。	総合対策外来種。緑化用（道路法面）。砂防。河原に群生。1959年、四国に導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。栄養繁殖（根茎による）。
	国外	タカサゴユリ（シンテッポウユリ）	<i>Lilium formosanum</i>		離島を含む県内各地	台湾	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉（在来種と雑種形成の可能性あり）。	観賞用。1920年代に国内導入。
	国外	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入（輸入穀物に混入）。	人間や家畜の健康被害。	総合対策外来種。有毒。薬用。1959年に混入確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。悪臭あり。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	特定外来生物	鹿児島市・伊佐市・さつま町	北米	非意図的導入（輸入飼料や豆類に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地（牧草。飼料畑）の害草。	総合対策外来種。つる性。1952年、静岡県で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い。埋土種子が多い）。他種を被陰。他感作用あり。果実に刺あり。
	国外	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。1865年、国内へ導入（観賞用）。無融合生殖する。栄養繁殖（根茎による）。除草剤耐性型あり
	国外	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>		県本土各地・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	1920年、国内へ導入（観賞用）。1980年代除草剤耐性型が出現。
	国外	ヒマワリヒヨドリ	<i>Eupatorium odoratum</i>		奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。1980年、沖縄県で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。根茎から再生。他感作用あり。
	国外	ワタゲツルハマグルマ	<i>Arctotheca prostrata</i>		鹿児島市五位野	南アフリカ	逸出	不明	草地。グラウンドカバー用
	国外	ナガバオモダカ	<i>Sagittaria graminca</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。水生（抽水性。観賞用（アクアリウムプランツ）。1970年、京都で確認。国内には雄株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖（走out枝による）。耐寒性あり。
	国外	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。水生の在来種を駆逐。通水障害。	総合対策外来種。水生（沈水性）。観賞用（アクアリウムプランツ）。教材用？ 1961年、滋賀県で確認。国内には雄株のみで種子繁殖しない。栄養繁殖（切れ藻、殖芽による）。
	国外	アレチイボクサ	<i>Murdannia nudiflora</i>		鹿児島市・薩摩川内市城上町・湧水町	不明	不明	不明	湿地
	国外	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。1940年、愛知県で確認。栄養繁殖（根茎による）。他感作用あり。
	国外	ドクムギ	<i>Lolium temulentum</i>		離島を含む県内各地に散在	地中海地方	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間や家畜の健康被害（中毒）。	産業管理外来種。有毒（麦角菌寄生による）。
	国外	オオアワガエリ	<i>Phleum pratense</i>		鹿児島市・霧島市	ユーラシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害（花粉症）、	産業管理外来種。牧草。緑化用（芝草）。1874年、北海道へ導入。繁殖力旺盛（種子数が多い）。栄養繁殖（球茎による）。耐寒性あり（山地植生にも影響？）
	国外	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。	水生の在来種を駆逐。繁殖干渉（在来種と雑種形成の可能性あり）。	総合対策外来種。抽水性。観賞用。ビオトープ用。水質浄化用。栄養繁殖（根茎分枝による）。
	国外	マルバヒメアメリカアゼナ	<i>Micranthemum sp.</i>		鹿児島市	北アメリカ	不明	なし	湿った草地
	国外	シノブボウキ	<i>Asparagus setaceus</i> 'Nanus'		屋久島・奄美大島	南アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	侵入地では林内に繁茂している。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	クルマバヒメクグ	<i>Cyperus aromaticus</i>		奄美大島	アフリカ・マダガスカル	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ベニツツバナ	<i>Odontonema strictum</i>		南大隅町・奄美大島・徳之島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	センダンキササゲ	<i>Radermachera sinica</i>		奄美大島	東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	

4 重点啓発種

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
鳥類	国外	カワラバト（ドバト）	<i>Columba livia</i>		離島を含む県内全域	アフリカ北部・中近東・中央アジア・南アジア・中国西部	奈良時代に導入されたといわれる。野生のドバトの記録は明治以降に見られる。	農作物の食害や糞害が発生している。	有害駆除の対象になっている。
汽水・淡水産魚類	国内	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>		川内川水系・池田湖	日本各地（北海道と九州南部を除く）・朝鮮半島	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	在来のアブラボテと二枚貝をめぐって競合が生じるおそれがある。アブラボテとの間に交雑が知られている。	川内川水系では、1990年代半ば以降に急増した。池田湖は一時的に繁殖。環境省RDBでは準絶滅危惧である。
	国外	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>		米之津川・川内川水系とその周辺の河川・万之瀬川・永田川（鹿児島市）	東アジア・台湾	日本には、1942年にハクレン等の種苗に混入して導入された。その後、放流用の種苗への混入や観賞用飼育個体の遺棄により導入されたと思われる。	在来のアブラボテと産卵基質の二枚貝をめぐって競合が生じるおそれがある。	総合対策外来種。導入によりほぼ日本全土に分布する。
	国内	ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>		大鶴湖（鶴田ダム）	琵琶湖・淀川水系・三方湖	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	生態系の上位種で、小型の魚類を捕食する魚食性が強く、在来種の生息を脅かすおそれがある。	総合対策外来種。
	国内	オイカワ	<i>Zacco platypus</i>		県本土各地・甲女川（種子島）・秋利神川（徳之島）	関東～九州北部・朝鮮半島・中国大陸東部	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	県本土の広範囲と種子島の一部の河川では優占種となっているが、他の魚介類への影響は不明。	県本土では、極めて普通に見られる淡水産魚である。
	県内	ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>		屋久島（安房川）	北海道～九州・南千島・朝鮮半島	不明。	不明。	川内川水系・大隅半島は自然分布。
	国外	スリコギモーリー	<i>Poecilia mexicana</i>		指宿市（二反田川）	中央～南米	不明。	胎生種で繁殖力が強い。小型の魚類、甲殻類、水生昆虫を捕食もしくは駆逐するおそれがある。	温泉流入河川で自然繁殖している。コクチモーリーは本種の誤同定。
	国内	タウナギ	<i>Monopterus albus</i>		鹿児島市（甲突川）	朝鮮半島～東南アジア・琉球列島	日本には1900年頃に記録があり、食用のために導入された可能性が高い。逸出したものが野生化したと思われる。	琉球列島の在来個体群が遺伝的に攪乱されるおそれがある。	中国から東南アジアでは食材である。甲突川のは、中国由来の集団と考えられる。
	国外	カウスズメ（モザンビークティラピア）	<i>Oreochromis mossambicus</i>	指定外来動植物	指宿など	アフリカ	日本には1954年に、食用のために導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	雑食性で繁殖力が強く、本種が優占種となり、生物多様性を喪失した水域がある。ただし、温泉地帯で他の淡水魚が生息しない水域に限られるため、影響は不明。	総合対策外来種。指宿などの温泉地に生息。
	国外	ナイルティラピア（チカダイ）	<i>Oreochromis niloticus</i>	指定外来動植物	川内川水系・肝属川水系・池田湖・沖永良部島	アフリカ	日本には1962年に、食用のために導入された。逸出あるいは遺棄されたものが野生化したと思われる。	雑食性で繁殖力が強く、本種が優占種となり、生物多様性を喪失した水域がある。ただし、一部の温泉流入地や湧水地に限られる。	総合対策外来種。ティラピア類の中では比較的低水温に強く、温泉地以外にも湧水の豊富な河川や湖沼で繁殖可能である。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	カムルチー	<i>Channa argus</i>	指定外来動植物	江内川・川内川水系とその周辺の河川・蘭牟田池	東アジア	日本には1923～24年頃に、食用のために導入された。	大型の肉食魚であり、魚類や両生類、鳥類を捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	近年は安定傾向にある。
昆虫類	県内	カブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma</i>		奄美大島	東アジア・本州～九州・種子屋久	意図的な導入。	自然生態系に与える影響は不明。	特に子供や学校現場などの運搬に注意が必要。
	国内	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>		県本土	日本の他地域	意図的な導入。	各地に異なる遺伝子集団が存在するが、放流などにより人為的攪乱が生じている。	指宿市、鹿屋市には他地域に先駆けて羽化する個体群があり、これらが人為的に移動させられると影響が大きい。
	国外	カンザイシロアリ	<i>Incisitermes minor</i>	なし	南さつま市	アメリカ	1976年に東京で初めて確認され、その後広く全国で確認された。	家屋などの乾燥材を食害する。	被害を発見した際に、早期にコロニーごと防除する必要がある。
	国外	ツヤオオズアリ	<i>Pheidole megacephala</i>	指定外来動植物	県本土（薩摩半島のみ）・奄美群島	アフリカ	おそらく非意図的な導入。奄美群島内では一部自力分散？	公園や海岸で、在来のアリなどに負の影響を与える可能性がある。	土中に営巣する。
	国外	ナンヨウテンコクオオズアリ	<i>Pheidole parva</i>		奄美群島 薩摩半島	不明	おそらく非意図的な導入。奄美群島内では一部自力分散？	公園や海岸で、在来のアリなどに負の影響を与える可能性がある。	1989年に沖縄島で確認され、2002年に沖永良部島、2003年には奄美大島で発見された。奄美群島の攪乱地（港、公園など）では優占種となりつつある。指宿市では2019年初めて確認され、一部地域では定着している。
	国外	アシナガキアリ	<i>Anoplolepis gracilipes</i>		奄美群島	不明		国外では自然・半自然生態系に強い影響を与える例が報告されているが、奄美群島における影響は不明。	2017年に鹿児島新港、谷山港で確認された。
	国外	ヒゲナガアメイロアリ	<i>Paratrechina longicornis</i>		奄美群島 薩摩半島	東南アジア（?）	おそらく非意図的な導入。	攪乱地にのみ生息し、自然生態系に与える影響は軽微。	指宿市では2020年初めて確認され、一部地域では定着している。
	国外	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>		県本土～奄美群島	北米	侵入時期が古く、推定不可能だが、本州あるいは沖縄から侵入した可能性がある。	人家周辺でコンポスト、堆肥などに大量に発生する不快昆虫。	
	国外	アシジロヒラフシアリ	<i>Technomyrmex brunneus</i>		県本土・大隅諸島・奄美群島	東南アジア	おそらく非意図的な導入。	時に二次林にも侵入することから、自然生態系への影響が考えられる。	県本土では海岸に沿って分布北上が見られる。
その他節足動物	国内	カブトエビ類	<i>Triops</i> spp.		県下の淡水域に広く分布するも・現況不明	日本本土？	観賞用が逸出。	競合・捕食による固有生態系への影響。	淡水産。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国内	セタシジミ	<i>Corbicula sandai</i>		池田湖	琵琶湖水系	アユの稚魚に紛れて導入された。	固有種貝類との競合。	淡水産。原産地の琵琶湖水系では絶滅危惧Ⅱ類。
	国外	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>		離島を含む県内各地の海域	ヨーロッパ	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。
	国外	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>		離島を含む県内各地の海域	インド洋	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
	国外	オオオカチョウジガイ	<i>Allopeas gracile</i>		離島を含む県内全域	東南アジア・中南米	不明。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	陸産。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>		県本土各地（薩摩地方）	北米	園芸植物に種着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	陸産。
	国外	ヒメコハクガイ	<i>Hawaia minuscula</i>		県本土各地（薩摩地方）・屋久島・奄美大島・与論島	北米	園芸植物に種着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	陸産。
	国外	オナジマイマイ	<i>Bradybaena similaris</i>		離島を含む県内各地	東南アジア	園芸植物に種着。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	陸産。
その他無脊椎動物	国内	ギボシムシの一種			鹿児島湾（干潟）	有明海？	放流アサリに混じって導入された。	競合・捕食による固有生態系への影響。	海水産。
	国外	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>		離島を含む県内各地の海域	北米海岸	バラスト水に混じって導入された。	競合・捕食による固有生態系への影響。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
維管束植物	国内	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>		鹿児島市・薩摩川内市・日置市・大崎町	台湾・中国・フィリピン	栽培逸出。非意図的導入（園芸植物に混入？）	在来種と競合。	シダ。観賞用。
	国外	コンテリクラマゴケ	<i>Selaginella uncinata</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。非意図的導入（園芸植物に混入？）	在来種と競合、繁殖干渉の可能性あり。	シダ。観賞用。
	国外	ヒハツモドキ	<i>Piper retrofractum</i>		奄美大島	中国南部・インドシナ	栽培逸出。	在来種と競合	薬用・食用（香辛料）
	国外	チャラン	<i>Chloranthus spicatus</i>		奄美大島	中国南部・東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ナンバンカラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>tenacissima</i>		離島を含む県内各地	アジア大陸	栽培逸出。	在来種と競合。	繊維用。
	国外	コゴメミズ	<i>Pilea microphylla</i>		鹿児島市・枕崎市・霧島市・南九州市・屋久島・奄美群島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ジャクチリソバ	<i>Polygonum dibotrys</i>		鹿児島市・鹿屋市・霧島市・伊佐市	中国西南部・ミャンマー・ヒマラヤ	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。薬用。食用。他感作用あり。
	国外	ダツタンソバ	<i>Fagopyrum tataricum</i>		離島を含む県内各地に散在	チベット高原・インド北部～中国西部	栽培逸出。	在来種と競合。	飼料・食用（健康食品）。
	県内	ツルタデ	<i>Fallopia dumetorum</i>		離島を含む県内各地に散在	北半球温帯	栽培逸出。	在来種と競合。	在来種の可能性もあり。
	国外	ハイミチャナギ	<i>Polygonum arenastrum</i> subsp. <i>Depressum</i>		鹿屋市	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	匍匐性。1950年、北海道で確認。
	国外	ツルドクダミ	<i>Fallopia multiflora</i>		鹿児島市・鹿屋市・枕崎市・南九州市・長島町・沖永良部島	中国	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。薬用。
	国外	ヒメツルソバ	<i>Percicaria capitata</i>		離島を含む県内各地（奄美大島以北）	ヒマラヤ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	オオケタデ	<i>Percicaria orientalis</i>		鹿児島市・薩摩川内市・南大隅町・屋久島	東～南アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繊維用。
	国外	ハリタデ	<i>Persicaria bungeana</i>		喜界島？	北東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国内	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i>		さつま町	日本北部・サハリン・クリル諸島・朝鮮	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	県内	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ・アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	史前帰化。
	国外	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>		県本土各地・奄美大島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。明治時代に国内で確認。栄養繁殖（横走根による）。
	国外	アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>		鹿児島市・鹿屋市・垂水市・霧島市・大崎町	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>		県本土各地・屋久島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	エゾノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		県本土各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。駆除しにくい耕作地の害草。	総合対策外来種。1909年、北海道で確認。低温耐性あり。
	国外	シロザ	<i>Chenopodium album</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	食用。繁殖力旺盛（種子生産量が多い。埋土種子が多い）。
	国外	アカザ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>centrorubrum</i>		離島を含む県内各地	インド～中国	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	食用。繁殖力旺盛（種子生産量が多い。埋土種子が多い）。
	国外	アカバアカザ	<i>Chenopodium rubrum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・東アジア・北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アリタソウ（ケアリタソウを含む）	<i>Chenopodium ambrosioides</i>		鹿児島市	メキシコ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカアリタソウ	<i>Ambrina ambrosioides</i> var. <i>anthelminticum</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウラジロアカザ	<i>Chenopodium glaucum</i>		出水市・南さつま市・長島町	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ミナトアカザ	<i>Chenopodium murale</i>		離島を含む県内各地に散在	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホウキギ	<i>Kochia scoparia</i>		出水市	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（葉）。工芸用（茎を簞に加工）
	国外	ホソバツルノゲイトウ	<i>Alternanthera denticulata</i>		離島を含む県内各地	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ツルノゲイトウ	<i>Alternanthera sessilis</i>		離島を含む県内各地	南米？	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメシロビユ	<i>Amaranthus albus</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒモゲイトウ	<i>Amaranthus caudatus</i>		奄美大島	イラン	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ハイビユ	<i>Amaranthus deflexus</i>		鹿児島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スギモリゲイトウ	<i>Amaranthus cruentus</i>		奄美大島	インド？	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繁殖力旺盛。
	国外	オオホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus palmeri</i>		指宿市・口永良部島・喜界島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繁殖力旺盛。
	国外	ホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus powellii</i>		鹿児島市・垂水市・口永良部島・奄美大島・喜界島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	繁殖力旺盛。
	国外	ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>		離島を含む県内各地に点在	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	繁殖力旺盛。
	国外	アオゲイトウ	<i>Amaranthus retroflexus</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1912年、国内で確認。繁殖力旺盛。
	国外	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	人間や家畜の健康被害。	有毒。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i>		垂水市・南さつま市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハゼラン	<i>Talinum paniculatum</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。食用。繁殖力旺盛。
	国外	シロミミナグサ	<i>Cerastium tomentosum</i>		奄美大島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ノハラナデシコ	<i>Dianthus armeria</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒゲナデシコ	<i>Dianthus barbatus</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国内	オオヤマフスマ	<i>Moehringia lateriflora</i>		阿久根市	北半球温帯・北海道～九州	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌコモチナデシコ	<i>Petrorhagia nanteuilii</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1960年、国内で確認。
	国外	コモチナデシコ	<i>Petrohagia prolifera</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヨツバハコベ	<i>Polycarpon tetraphyllum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ムシトリマンテマ	<i>Silene antirrhina</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ツキミマンテマ	<i>Silene nocturna</i>		鹿児島市	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	2002年、国内で確認。
	国外	サクラマンテマ	<i>Silene pendula</i>		鹿児島市・甕島	地中海沿岸	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	シロバナマンテマ	<i>Silene gallica</i>		離島を含む県内各地（口之島以北）	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	マンテマ	<i>Silene gallica</i> var. <i>quiquevulnera</i>		離島を含む県内各地（屋久島以北）	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	イタリーマンテマ	<i>Silene gallica</i> var. <i>giraldii</i>		県本土各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノハラツメクサ	<i>Spergula arvensis</i>		離島を含む県内各地に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	オオツメクサ	<i>Spergula arvensis</i> var. <i>sativa</i>		離島を含む県内各地に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の冬期害草。	明治時代に国内で確認。
	国外	シュウメイギク	<i>Anemone hupehensis</i> var. <i>japonica</i>		鹿児島市・曾於市・霧島市・姶良市・湧水町	中国西南部	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>		鹿児島市・出水市・薩摩川内市・南さつま市・屋久島	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1960年、国内で確認。
	国外	アフリカフウチョウソウ	<i>Cleome rutidosperma</i>		鹿児島市・屋久島・奄美大島・徳之島・与論島	熱帯アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国内	ヒメフウチョウソウ	<i>Cleome viscosa</i>		鹿児島市	熱帯アジア～琉球	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種（琉球以南に自生）。
	国外	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・西アジア・ヒマラヤ	栽培逸出。非意図的導入（輸入麦類に随伴）	在来種と競合。駆除しにくい耕作地の害草。	総合対策外来種。食用（ハーブ）。1910年、植物園で栽培。1960年、野生化。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	アマナズナ	<i>Camelina alyssum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	工業利用（ランプ用亜麻醬油）。
	県内	エゾスズシロ	<i>Erysimum cheiranthoides</i>		鹿児島市	北半球温帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種。
	国外	キレハマメグンバイナズナ	<i>Lepidium bonariense</i>		鹿児島市・竹島・種子島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	マメグンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ショカツサイ	<i>Orychophragmus violaceus</i>		日置	中国	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用・食用（油）。
	国外	セイヨウノダイコン	<i>Raphanus raphanistrum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・北アフリカ・中近東	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハマダイコン	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>raphanistroides</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	キレハイヌガラシ	<i>Rorippa sylvestris</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	他感作用あり。
	国外	ダイコンモドキ	<i>Hirschfeldia incana</i>		垂水市・喜界島	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハタザオガラシ	<i>Sisymbrium altissimum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	カキネガラシ	<i>Sisymbrium officinale</i>		県本土各地・中之島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	イヌカキネガラシ	<i>Sisymbrium orientale</i>		県内各地に点在	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1912年、国内で確認。
	国外	セイロンベンケイ	<i>Bryophyllum pinnatum</i>		鹿児島市・種子島・屋久島・奄美群島	アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。栄養繁殖（葉の不定芽により）。
	国外	オノマンネングサ	<i>Sedum lineare</i>		出水市・薩摩川内市・伊佐市・長島・甬島	中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	栄養繁殖。
	国外	メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>		県本土各地・屋久島	中国東部	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	栄養繁殖。
	国外	ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>		県本土各地	朝鮮・中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	匍匐茎による栄養繁殖。
	国内	ガクアジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>normalis</i>		離島を含む県内各地	本州	栽培逸出。	繁殖干渉の可能性あり。	国内外来種（神奈川県伊豆産）。栽培品種多数あり。
	国外	オキジムシロ	<i>Potentilla supina</i>		鹿屋市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ソウシジュ	<i>Acacia confusa</i>		南大隅町・離島各地	フィリピン	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。緑化用（公園樹。街路樹）。
	国外	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		離島を含む県内各地（与路島以北）	北米	栽培逸出。	在来種と競合。景観の改変。生態系に影響。	総合対策外来種。緑化。砂防。護岸。防風。生垣。飼料。観賞用。萌芽再生する。
	国外	ハナハギ	<i>Campylotropis macrocarpa</i>		鹿児島市・南九州市	中国・朝鮮	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面など）。
	国外	エビスグサ	<i>Senna obtusifolia</i>		鹿児島市・中之島・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	ハブソウ（クサセンナ）	<i>Senna occidentalis</i>		鹿児島市・種子島・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	ホソミエビスグサ	<i>Senna tora</i>		沖永良部島・奄美大島・与路島	中国・インド～フィジー	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	コガネタヌキマメ	<i>Crotalaria assamica</i>		離島を含む県内各地	インド・東南アジア・中国南部	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	緑肥。
	国外	ハネタヌキマメ	<i>Crotalaria bialata</i>		奄美群島	インド・マレーシア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	キバナハギ	<i>Crotalaria pallida</i>		喜界島	熱帯アフリカ？	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオバタヌキマメ	<i>Crotalaria spectabilis</i>		離島を含む県内各地に点在	インド	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		鹿児島市・垂水市・薩摩川内市・いちき串木野市・南大隅町	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ムラサキヌスビトハギ	<i>Desmodium tortuosum</i>		奄美大島	北米中部～南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アコウマイハギ	<i>Desmodium scorpiurus</i>		奄美大島	熱帯アメリカ？	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トウコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	緑化用（道路法面など）。
	国外	ナンパンコマツナギ	<i>Indigofera suffruticosa</i>		諏訪之瀬島・奄美大島・加計呂麻島・徳之島・沖永良部島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タクヨウレンリソウ	<i>Lathyrus aphaca</i>		喜界島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>		離島含む県内各地に点在（奄美大島以北）	日本（北海道～九州）・南クリル・シベリア・極東ロシア・朝鮮・中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	緑化用（道路法面など）。
	国外	オクシモハギ	<i>Lespedeza davidii</i>		県本土・奄美大島・徳之島・種子島	中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シロバナハギ（シラハギ）	<i>Lespedeza thunbergii</i> f. <i>albiflora</i>		さつま町・霧島市	朝鮮半島	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ネビキミヤコグサ	<i>Lotus pedunculatus</i>		県本土各地・種子島	ヨーロッパ・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コウマゴヤシ	<i>Medicago minima</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草（随伴混入もあり）。
	国外	ニセウマゴヤシ	<i>Medicago hispida</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草（随伴混入もあり）。
	国外	シャグマハギ	<i>Trifolium arvense</i>		鹿児島市・徳之島	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シロバナシナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i>		鹿児島市・いちき串木野市・長島町・奄美大島・与路島	アフリカ・西～中央アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	シナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i> subsp. <i>Suaveolens</i>		鹿児島市・阿久根市・薩摩川内市・トカラ列島・奄美群島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内定着。
	国外	コシナガワハギ	<i>Melilotus indica</i>		薩摩川内市	地中海沿岸・ヨーロッパ南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチオランダゲンゲ	<i>Trifolium hybridum</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ヤハズエンドウ（オオヤハズエンドウ）	<i>Vicia sativa</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	緑肥。
	国外	オランダフウロ	<i>Erodium cicutarium</i>		千貫平	ユーラシア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	江戸時代末期に国内導入。
	国外	ミツバオランダフウロ	<i>Erodium crinitum</i>		伊佐市	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	昭和初期に国内で確認。
	国外	チゴフウロ	<i>Geranium pusillum</i>		千貫平	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>		県内各地に散在	南米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。1967年、国内で確認。栄養繁殖（塊茎による）。
	国外	ハナカタバミ	<i>Oxalis bowieana</i>		離島を含む県内各地に点在	南アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>		離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。家畜の健康被害。耕作地の強害草。	観賞用。1861年～1864年、国内導入。栄養繁殖（鱗茎による）。
	国外	オッタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>		離島を含む県内各地（与路島以北）	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1965年、京都府で確認。
	国外	オオキバナカタバミ（キイロハナカタバミ）	<i>Oxalis pes-caprae</i>		指宿市・枕崎市	南アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	フヨウカタバミ	<i>Oxalis purpurea</i>		枕崎市・指宿市・甕島・屋久島	南アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キバナノマツバニンジン	<i>Linum medium</i> (Planch.) Britton var. <i>medium</i>		霧島市・鹿屋市・指宿市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	県内	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>		牧園、鹿屋	日本（北海道～九州）・東シベリア・朝鮮・ウズリー・中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ゴシュユ	<i>Euodia rutaecarpa</i>		鹿児島市・出水市・日置市・いちき串木野市・長島町	東部ヒマラヤ～中国	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	コバナヒメハギ	<i>Polygala paniculata</i>		屋久島・奄美群島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハズ	<i>Croton tiglium</i>		屋久島	東南アジア熱帯	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。食用（クロトン油）。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ショウジョウソウ	<i>Euphorbia cyathophora</i>		出水市・志布志市・伊佐市・肝付町・奄美群島	熱帯アメリカ（合衆国～ベネズエラ）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハイニシキソウ	<i>Chamaesyce prostrata</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ（合衆国～アルゼンチン）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1952年、国内で確認。
	国内	ハマタイゲキ	<i>Euphorbia atoto</i>		馬毛島・屋久島・中之島・宝島・奄美群島	琉球・台湾・中国南部・フィリピン・ポリネシア・オーストラリア・ジャワ・マレーシア・インド	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	オオニシキソウ	<i>Chamaesyce nutans</i>		県本土各地・竹島・奄美大島・沖永良部島	北米・中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1904年、国内で確認。他感作用あり。
	国外	コニシキソウ	<i>Chamaesyce maculata</i>		離島を含む県内各地	北米・中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ハツユキソウ	<i>Euphorbia marginata</i>		鹿児島市	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイタカニシキソウ	<i>Chamaesyce hyssopifolia</i>		奄美大島	新熱帯～亜熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オガサワラコミカンソウ	<i>Phyllanthus debilis</i>		さつま町・徳之島・奄美市	スリランカ・インド南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>		離島を含む県内各地	アフリカ・インド洋マスカレーヌ諸島	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1987年、神奈川県で確認。
	国外	オオアブラギリ（シナアブラギリ）	<i>Aleutites fordii</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	工業用（バイオ燃料）。
	国外	マルバミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>		鹿屋市	熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	フウセンカズラ（コフウセンカズラを含む）	<i>Cardiospermum halicacabum</i> (var. <i>microcarpum</i> を含む)		鹿児島市・南さつま市・奄美群島	熱帯～亜熱帯	栽培逸出。	在来種と競合。	つる性。観賞用。明治時代に国内導入。
	国内	シマツナソ	<i>Corchorus aestuans</i>		奄美群島	琉球・熱帯アジア・アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。有毒（種子）。繊維用（ジュート）。食用（タイワンツナソ同様にモロヘイヤとして利用）。
	国内	リュウキュウトロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i>		トカラ列島・奄美群島	琉球・小笠原・台湾・中国南部・インドシナ・マレーシア・インド・太平洋諸島	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ショウジョウカ	<i>Abutilon striatum</i>		日置市	中米熱帯	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ウサギアオイ	<i>Malva parviflora</i>		出水市・志布志市・種子島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	戦後に国内で確認。
	国外	エノキアオイ	<i>Malvastrum coromandelianum</i>		奄美群島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	フユアオイ	<i>Malva verticillata</i>		鹿児島市	東アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	キクノハアオイ	<i>Modiola caroliniana</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ホソバキンゴジカ	<i>Sida acuta</i>		奄美群島	中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカキンゴジカ	<i>Sida spinosa</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1951年、国内で確認。
	国外	キンシバイ	<i>Hypericum patulum</i>		霧島市・鹿児島市・志布志市・始良市・湧水町	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ニオイスマレ	<i>Viola odorata</i>		県内各地に散在	地中海沿岸	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	シキザキベゴニア	<i>Begonia cucullata Wild</i>		奄美大島・屋久島・日置市・薩摩川内市	ブラジル	栽培逸出。	生態系の攪乱	観賞用。
	国外	クダモノトケイソウ	<i>Passiflora edulis</i>		種子島・屋久島・奄美大島・喜界島・与論島	南米（ブラジル南部）	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	タンシウチワ	<i>Opuntia vulgaris</i>		南薩海岸	南米（ブラジル東部～アルゼンチン）	栽培逸出。	人間の健康被害（棘による怪我）。通行妨害。在来種と生育環境が競合。	観賞用。長く鋭い棘あり。乾燥耐性。国内では主に栄養繁殖。
	国外	ナンゴクヒメミソハギ	<i>Ammannia auriculata</i>		南九州市・湧水町・奄美大島	熱帯アフリカ・熱帯アメリカ・熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1968年、鹿児島県で確認。
	国外	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1950年代長崎県で確認。除草剤耐性型あり。
	国外	トウビシ	<i>Trapa bispinosa</i>		鹿児島市・伊佐市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ヒレタゴボウ	<i>Ludwigia decurrens</i>		鹿児島市・薩摩川内市・南さつま市・さつま町	熱帯アメリカ（合衆国東南部～アルゼンチン）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1950年代に国内で確認。
	国外	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>		県本土各地・屋久島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。生態系に影響（海浜の草原化による景観改変）。駆除しにくい耕作地の害草。	1920年、国内で確認。繁殖力旺盛。他感作用あり。アレチマツヨイグサとの中間型あり。
	国外	オオキレハマツヨイグサ	<i>Oenothera grandis</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アレチマツヨイグサ	<i>Oenothera parviflora</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	メマツヨイグサとの中間型あり。
	国外	ヒナマツヨイグサ	<i>Oenothera perennis</i>		種子島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオマツヨイグサ	<i>Oenothera erythrosepala</i>		県本土・喜界島・奄美大島	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。生態系に影響（海浜の草原化による景観改変）。	1910年、国内で確認。匍匐性。近縁種と交雑する。
	国外	ユウゲシヨウ	<i>Oenothera rosea</i>		離島を含む県内各地	北米（合衆国～メキシコ）	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	ヒルザキツキミソウ	<i>Oenothera speciosa</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i>		県本土・甌島	南米（チリ〜アルゼンチン）	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。江戸時代に国内導入。
	国外	ツキミソウ	<i>Oenothera tetraptera</i>		奄美大島	北米（テキサス〜メキシコ）	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ノハラマツヨイグサ	<i>Oenothera villosa</i>		鹿児島市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イノンド	<i>Anethum graveolens</i>		種子島・奄美大島	インド〜イラン・地中海沿岸〜南ロシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（香辛料）。
	国外	マツバゼリ	<i>Apium ammi</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノラニンジン	<i>Daucus carota</i>		鹿児島市・鹿屋市・南さつま市・徳之島・与論島	不明（ユーラシア〜アフリカ？）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウイキョウ	<i>Foeniculum vulgare</i>		奄美大島	地中海・西アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（香辛料、ハーブ）。薬用。観賞用（花材）。
	国外	ナガミゼリ	<i>Scandix pecten-veneris</i>		鹿児島市	地中海沿岸	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	アカバナルリハコベ	<i>Anagallis arvensis</i>		県内各地に散在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	近縁種のルリハコベは魚毒。
	国外	トウワタ	<i>Asclepias curassavica</i>		離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。有毒。
	国外	フウセントウワタ	<i>Gomphocarpus fruticosus</i>		離島を含む県内各地（屋久島以北）	アラビア・アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。有毒。
	県内	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>		鹿児島市	日本（本州〜九州）・朝鮮・中国・インドシナ・マレー半島・インド	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国外外来種の可能性あり。つる性。
	国外	モミジバヒルガオ	<i>Ipomoea cairica Sweet</i>		屋久島・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。つる性。観賞用。1930年代に国内導入。栄養繁殖（茎から発根）。
	国外	ヨウサイ	<i>Ipomoea aquatica</i>		奄美群島	熱帯アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	アメリカアサガオ（マルバアメリカアサガオを含む）	<i>Pharbitis hederacea</i> (var. <i>integriscula</i> を含む)		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。非意図的導入（輸入穀物に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	つる性。観賞用。江戸時代に国内導入。
	国外	アサガオ（コアサガオ）	<i>Ipomoea nil</i>		県本土各地・屋久島・悪石島・奄美大島	中国西部〜ヒマラヤ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	イモネアサガオ	<i>Ipomoea pandulata</i>		指宿市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>		鹿児島市・鹿屋市・志布志市	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。観賞用。江戸時代に国内導入。
	国外	ルコウソウ	<i>Ipomoea quamoclit</i>		県本土各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	つる性。観賞用。
	国外	ネコアサガオ	<i>Ipomoea sinensis</i>		奄美大島・沖永良部島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	つる性。
	国外	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>		離島を含む県内各地（奄美大島以北）	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	つる性。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。耕作地の夏期強害草。	総合対策外来種。つる性。1945年以降に国内で確認。
	国内	ツタノハヒルガオ	<i>Merremia hederacea</i>		奄美大島	小笠原（母島）・琉球・熱帯アジア・アフリカ・オーストラリア・ミクロネシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。つる性。
	県内	イヌムラサキ	<i>Buglossoides arvensis</i>		高隈山	日本（北海道～九州）・アジア～ヨーロッパ温帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	ナンバンリソウ	<i>Heliotropium indicum</i>		奄美大島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒギリ	<i>Clerodendrum japonicum</i>		南大隅町・奄美大島	東南アジア・インド	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ランタナ	<i>Lantana camara</i>		離島を含む県内各地	南米	栽培逸出。	在来種と競合。生態系に影響（林床植生を改変）。	観賞用。1865年、国内に導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い。鳥散布による拡散）。根茎から再生する。
	国外	ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>		鹿児島市・鹿屋市・志布志市・屋久島・奄美大島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ハマクマツヅラ（ヒメクマツヅラ）	<i>Verbena litoralis</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	シュツコンバーベナ	<i>Verbena rigida</i>		県内各地に散在	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヒメビジョザクラ	<i>Verbena tenera</i>		鹿児島市・いちき串木野市・さつま町	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイヨウキランソウ	<i>Ajuga reptans</i>		離島を含む県内各地に散在	北ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>		県本土各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヌマハッカ	<i>Mentha aquatica</i>		鹿児島市・種子島・徳之島・沖永良部島	ヨーロッパ・北アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（香辛料、ハーブ）。
	国外	エゴマ	<i>Perilla frutescens</i>		県本土各地・三島・屋久島・宝島・奄美大島	中国～ヒマラヤ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	食用（エゴマ油）。
	県内	レモンエゴマ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>hirtella</i>		離島を含む県内各地（徳之島以北）	本州（埼玉以西）～九州	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	国内外来種の可能性あり。
	国外	ミナトタムラソウ	<i>Salvia verbenaca</i>		奄美大島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナトラノオ	<i>Physostegia virginiana</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヤブチョロギ	<i>Stachys arvensis</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	戦後に西日本で確認。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i>		鹿児島市・薩摩川内市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。明治時代に国内導入。
	国外	オオセンナリ	<i>Nicandra physaloides</i>		鹿児島市	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	有毒。江戸時代に国内導入（観賞用）、1964年、別系統が野生化。
	国外	ブドウホオズキ	<i>Physalis peruviana</i>		奄美大島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ヒロハフウリンホオズキ（センナリホオズキ）	<i>Physalis angulata</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。有毒。他感作用あり。ヒロハフウリンホオズキ、ボンパフウリンホウズキと混同しやすい。
	国外	ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ショクヨウホオズキ	<i>Physalis pubescens</i> var. <i>grisea</i>		喜界島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>		鹿児島市・鹿屋市・指宿市・霧島市・屋久島・口永良部島・中之島	北米	非意図的導入（飼料、堆肥に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。牧草や飼料混入により品質低下。牧草地の強害草。	有毒。茎に刺あり。明治時代に千葉県で確認。栄養繁殖（根茎による）。
	国外	キンギンナスビ	<i>Solanum ciliatum</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	オオイヌホオズキ（ムラサキイヌホオズキ）	<i>Solanum nigrescens</i>		離島を含む県内各地に散在	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タマサンゴ	<i>Solanum pseudo-capsicum</i>		離島を含む県内各地に点在	南米（ブラジル）	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ナンゴクイヌホオズキ	<i>Solanum suffruticosum</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島	東南アジア・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トマトダマシ	<i>Solanum rostratum</i>		鹿児島市	北米（西部・メキシコ）	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ウキアゼナ	<i>Bacopa mannieri</i>		鹿児島市・薩摩川内市・志布志市	北米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用（アクアリウムプランツ）。湿生（浮遊性もあり）。1954年、岡山県で確認。除草剤抵抗型あり。
	国外	ニューギニアインパチェンス	<i>Impatiens x hawkeri</i>		徳之島	ニューギニア	栽培逸出。	生態系の攪乱	観賞用。
	国外	マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。1941年、国内で確認。
	国外	アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>		県本土各地・甕島・種子島・徳之島・沖永良部島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1950年代に国内で確認。除草剤抵抗型あり。
	国外	セイヨウヒキヨモギ	<i>Parentucella viscosa</i>		県本土各地・種子島	地中海沿岸	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	フラサバソウ	<i>Veronica hederifolia</i>		県本土各地・種子島・徳之島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に長崎県で確認。
	国外	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>		離島を含む県内各地	西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ムラサキイセハナビ	<i>Strobilanthes isophyllus</i>		南薩	インド	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	イセハナビ	<i>Strobilanthes japonica</i>		鹿児島市・屋久島・垂水市・いちき串木野市・南九州市	中国？	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入（牧草種子に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害（花粉症）。耕作地の害草。穀物や牧草に混入し品質低下。	江戸時代に国内導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。栄養繁殖（根茎による）。
	国外	セイヨウオオバコ	<i>Plantago major</i>		鹿児島市・屋久島・喜界島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	在来オオバコと判別しにくい。
	国外	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>		離島を含む県内各地に点在	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1913年、愛知県、1934年、大阪府で確認。
	国外	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i>		鹿屋市・南さつま市・始良市・さつま町・種子島・屋久島・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来種を駆逐。生態系に影響（海浜の草原化による景観改変）。	総合対策外来種。1927年、東京都で確認。
	国外	ハシカグサモドキ	<i>Richardia scabra</i>		長島町・硫黄島・奄美市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノヂシャ	<i>Valerianella olitoria</i>		薩摩川内市・曾於市・伊佐市・奄美大島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>		離島を含む県内各地（屋久島以北）	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイヨウノコギリソウ	<i>Achillea millefolium</i>		離島を含む県内各地（奄美大島以北）	ヨーロッパ・コーカサス・イラン・シベリア・ヒマラヤ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。1900年、国内導入。
	国外	カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。薬用。明治時代に国内導入。
	国外	ムラサキカッコウアザミ	<i>Ageratum houstonianum</i>	指定外来動植物	離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ブタクサモドキ	<i>Ambrosia psilostachya</i>		鹿児島市・南さつま市・南九州市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	カミツレモドキ	<i>Artemisia campestris</i>		鹿児島市・垂水市・出水市・指宿市・長島町	ヨーロッパ・北アフリカ・コーカサス・イラン・イラク	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地の害草。	1931年、神奈川県で確認。種子生存期間が長い。悪臭あり。飼料混入により牛乳に臭いがつく。
	国内	イワヨモギ	<i>Artemisia gmelinii</i>		肝付町（内之浦）・日置市・南さつま市・甕島	日本（北海道）・クリル・サハリン・朝鮮北部・中国・カラコルム	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	ヤブヨモギ	<i>Artemisia rubripes</i>		鹿児島市・南九州市・東串良町・奄美大島・徳之島	九州、朝鮮、中国	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	チョウセンシオン	<i>Aster koraiensis</i>		県内各地に散在	朝鮮	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>		県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。大正時代に国内導入。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	キダチコンギク	<i>Aster pilosus</i>		鹿児島市・南さつま市・南九州市・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ユウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>		鹿児島市・鹿屋市	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>sandwicensis</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コバノセンダングサ	<i>Bidens bipinnata</i>		鹿児島市・伊佐市・肝付町・種子島・奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	総合対策外来種。1920年、滋賀県、1940年代奄美大島、徳之島、沖縄県で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い。動物散布性の瘦果）。
	国外	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。駆除しにくい耕作地の害草。	江戸時代に国内導入。繁殖力旺盛（種子生産量が多い。動物散布性の瘦果）。
	県内	センダングサ	<i>Bidens biternata</i>		県本土各地・竹島・黒島・馬毛島・屋久島・口永良部島・平島・奄美大島	日本（関東以西～琉球）・ユーラシア・アフリカ・オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>		離島を含む県内各地	熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	キバナコスモス	<i>Bidens sulphurea</i>		離島を含む県内各地	メキシコ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	イガヤグルマギク	<i>Centaurea solstitialis</i>		鹿児島市	ヨーロッパ南部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ルリアザミ	<i>Centratherum punctatum</i>		日置市・鹿児島市・南さつま市・種子島・奄美市	ブラジル	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キクニガナ	<i>Cichorium intybus</i>		指宿市	ヨーロッパ中部～南部	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。食用（チコリ）。
	国外	アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>		甌島・県本土・種子島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。除草剤抵抗型あり。
	国外	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	種子繁殖（種子生産量が多い）。除草剤耐性型あり。
	国外	ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>		姶良市・南さつま市・屋久島	北米西部	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	マメカミツレ	<i>Cotula australis</i>		鹿児島市・姶良市	オーストラリア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1939年、兵庫県で確認。
	国外	ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>		離島を含む県内各地	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>		離島を含む県内各地（奄美大島以北）	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ダンドボロギク（ウシノタケダグサを含む）	<i>Erechtites hieracifolia</i> (var. <i>cacalioides</i> を含む)		県本土・屋久島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1933年、国内で確認。
	国外	タケダグサ	<i>Erechtites valerianifolia</i>		奄美大島・与路島・徳之島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>		鹿児島市・志布志市・屋久島	中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	ヒメムカシヨモギ	<i>Conyza canadensis</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1867年、国内で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。除草剤耐性株あり。乾燥耐性、低温耐性あり。
	国外	ケナシヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>		県本土各地・三島・屋久島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖永良部島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	テンニンギク	<i>Gaillardia pulchella</i>		竹島・トカラ列島・奄美群島	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	コゴメギク	<i>Galinsoga parviflora</i>		鹿児島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>		離島を含む県内各地（屋久島以北）	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1932年、国内で確認。
	国外	ホソバノチチコグサモドキ（タチチコグサ）	<i>Gnaphalium calviceps</i>		離島を含む県内各地（種子島以北）	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	大正時代に国内で確認。除草剤耐性型あり。
	国外	ウスベニチチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i>		鹿児島市・鹿屋市・霧島市・始良市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1930年代に国内で確認。
	国外	ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>		離島を含む県内各地（屋久島以北）	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1980年、国内で確認。
	国外	キバナタカサプロウ	<i>Guizotea abyssinaca</i>		枕崎市・指宿市	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スイゼンジナ	<i>Gynura bicolor</i>		離島を含む県内各地	中国南部・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ダンゴギク	<i>Helenium autumnale</i>		湧水町	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		離島を含む県内各地に散在	北米	栽培逸出。	在来種を駆逐。生態系に影響（遷移を停止）。	観賞用。家畜飼料。食用（果糖原料）。栄養繁殖（塊茎による）。
	国外	ヒメブタナ	<i>Hypochoeris glabra</i>		鹿児島市・阿久根市・薩摩川内市・肝付町	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	ブタナと交雑する。
	国外	ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入（飼料や緑化用種子に混入）。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。	繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。栄養繁殖（根茎による）。ヒメブタナと交雑する。
	国外	アラゲハンゴンソウ	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>		県本土各地・中種子町	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	タイワンハチジョウナ	<i>Sonchus arvensis</i>		鹿児島市・奄美群島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	1888年、東京都で確認。
	国外	フシザキソウ	<i>Synedrella nodiflora</i>		出水市・沖永良部島	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	一次帰化の可能性あり。
	国外	シオザキソウ	<i>Tagetes minuta</i>		垂水市・霧島市	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	一次帰化の可能性あり。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>		鹿児島市・薩摩川内市・日置市・伊佐市・種子島・奄美群島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合、繁殖干涉（在来種や外来種と交雑の可能性あり）。	総合対策外来種。無融合生殖する。栄養繁殖（根茎断片から再生）。
	国外	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		鹿児島市・甑島・種子島・屋久島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合、繁殖干涉（在来種や外来種と交雑の可能性あり）。	総合対策外来種。主に無融合生殖する。栄養繁殖（根茎断片から再生）。
	国外	ニトベギク	<i>Tithonia diversifolia</i>		鹿屋市・南さつま市・屋久島・種子島・奄美群島	中央アメリカ・メキシコ	逸出	在来種と競合、景観の改変	コウテイヒマワリなどの名称で観賞用として流通。沖縄県では薬用、健康食品として栽培。
	国外	アメリカハマグルマ	<i>Wedelia trilobata</i>	指定外来動植物	鹿児島市・枕崎市・指宿市・日置市・南さつま市・南大隅町・種子島・屋久島・種子島・奄美群島	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種を駆逐。生態系に影響（海岸植生等の改変）。	総合対策外来種。観賞用。緑化用（道路法面）。不稔種子が多い。栄養繁殖（匍匐茎から発根）。
	国外	コウガイセキショウモ	<i>Vallisneria × pseudorosulata</i>		鹿屋市	不明	水槽から逸出	在来種と競合、景観の改変	栄養体繁殖、繁殖率大（藤井）
	県内	ハイコヌカグサ	<i>Agrostis stolonifera</i>		伊佐市・さつま町・鹿児島市・屋久島	北半球温帯北部	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	緑化用（路面、道路法面）。
	国外	ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>		鹿児島市・鹿屋市・枕崎市・指宿市・霧島市・屋久島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	明治時代に国内で確認。
	国外	ヌカススキ	<i>Aira caryophylla</i>		県本土各地	ヨーロッパ・北アフリカ・西アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナヌカススキ	<i>Aira elegantissima</i>		離島を含む県内各地に点在	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオスズメノテッポウ	<i>Alopecurus pratensis</i>		鹿児島市・出水市・南九州市	ヨーロッパ～西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>		県本土各地・黒島・屋久島	ユーラシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。耐寒性あり（山地植生にも影響？）。
	国外	オオカニツリ	<i>Arrhenatherum elatius</i>		鹿児島市・霧島市・南さつま市	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ホソバツルメヒシバ	<i>Axonopus fissifolius</i>		鹿児島市・南九州市・黒島・口之島・奄美大島	ユーラシア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハウライチク	<i>Bambusa multiplex</i>		離島を含む県内各地	東南アジア（インドシナ）	栽培逸出。	在来種と競合。	点火材。
	国外	ホテイチク	<i>Phyllostachys aurea</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	バラグラス	<i>Brachiaria mutica</i>		奄美大島・徳之島	南米・西アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。栄養繁殖（節から発根する）。
	国外	コバンソウ	<i>Briza maxima</i>		離島を含む県内各地	地中海地方	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>		離島を含む県内各地	地中海地方	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>		県本土各地・馬毛島・徳之島	南米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ムクゲチャヒキ	<i>Bromus commutatus</i>		鹿児島市・阿久根市・指宿市・日置市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒゲナガスズメノチャヒキ	<i>Bromus diandrus</i>		鹿児島市・指宿市・志布志市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノゲイヌムギ	<i>Bromus sitchensis</i>		奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウマノチャヒキ	<i>Bromus tectorum</i>		鹿児島市・指宿市・いちき串木野市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	クリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>		鹿児島市・霧島市・栗野岳・伊佐市・南大隅町・奄美大島・喜界島・与論島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シンクリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>		南大隅町・奄美大島・与論島・喜界島・徳之島	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ヒメクリノイガ	<i>Cenchrus pauciflorus</i>		喜界島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国内	カンチク	<i>Chimonobambusa marmorea</i>		鹿児島市	日本（九州？）	栽培逸出	在来種と競合。	観賞用。食用。
	国外	オヒゲシバ	<i>Chloris virgata</i>		いちき串木野市・種子島・沖永良部島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>		離島を含む県内各地	インドシナ・インドネシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	湿生傾向あり。観賞用。工芸用。
	国外	ハトムギ	<i>Coix lacryma-jobi</i> var. <i>ma-yuen</i>		県本土	インドシナ・インドネシア	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。薬用。食用。
	国外	タツノツメガヤ	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>		鹿屋市・西之表市・奄美群島	熱帯アジア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌメヒシバ	<i>Digitaria setigera</i>		奄美群島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハキダメガヤ	<i>Dinebra retroflexa</i>		鹿児島市	インド・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒエ	<i>Echinochloa utilis</i>		薩摩川内市・高隈山・黒島	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	シコクビエ	<i>Eleusine coracana</i>		鹿児島市	アフリカ？	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ヌカカゼクサ	<i>Eragrostis amabilis</i>		瀬戸内町・喜界島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i> var. <i>japonensis</i>		奄美大島	東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スズメガヤ	<i>Eragrostis cilianensis</i>		県本土・口永良部島・喜界島・沖永良部島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コスズメガヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>		県本土各地・小宝島・喜界島	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	チャヒキモドキ	<i>Festuca bromoides</i>		湧水町	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	イヌナギナタガヤ	<i>Festuca dertonensis</i>		伊佐市	ヨーロッパ～ 西アジア・熱 帯アフリカ高 地	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒロハノウシノケ グサ	<i>Festuca elatior</i>		県本土各地・三 島・口永良部島・ 平島・喜界島	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ナギナタガヤ	<i>Vulpa myuros</i>		県本土各地・黒 島・屋久島・喜界 島	地中海地方～ 西アジア	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	産業管理外来種。
	国外	オオナギナタガヤ	<i>Vulpa myuros</i> var. <i>megalura</i>		伊佐市	北米	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキナギナタ ガヤ	<i>Festuca octoflora</i>		県本土各地	北米	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	県内	オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>		鹿児島市・曾於 市・志布志市・湧 水町・甕島・屋久 島	北半球温帯～ 亜寒帯	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	チャボウシノシッ ペイ	<i>Hemarthria altissima</i>		鹿児島市・南さつ ま市・肝付町・黒 島・種子島・奄美 大島・喜界島	東南アジア～ 中国南部	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シラゲガヤ	<i>Holcus lanatus</i>		指宿市・薩摩川内 市・霧島市・湧水 町・屋久島	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。
	県内	イトアゼガヤ	<i>Leptochloa panicea</i>		種子島・宝島・奄 美群島	九州・琉球・ アジア～アフ リカ熱帯	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハリノホ	<i>Monerma cylindrica</i>		鹿児島市	南ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	県内	ネズミガヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>		鹿児島市・いちき 串木野市・喜界島	日本	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ボウムギ	<i>Lolium subulatum</i>		鹿児島市・指宿 市・志布志市	地中海地方	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナクサキビ	<i>Panicum capillare</i>		鹿児島市・南大隅 町・奄美市	北米	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		離島を含む県内各 地	北米	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。
	国外	ギネアキビ	<i>Panicum maximum</i>		離島を含む県内各 地	アフリカ西海 岸	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	産業管理外来種。
	国外	オガサワラスズメ ノヒエ	<i>Paspalum conjugatum</i>		口之島・奄美大 島・加計呂麻島・ 徳之島・沖永良部 島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		離島を含む県内各 地	南米	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。
	国外	チクゴスズメノヒ エ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>		種子島	北米	非意図的導入。近隣地域な どから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	キシウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i>		離島を含む県内各地	熱帯	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来の湿生植物を駆逐。生態系に影響（水中の酸素欠乏。通水障害）。	総合対策外来種。湿生。牧草。家畜飼料。1924年、和歌山で確認。繁殖力旺盛（種子数が多い）。栄養繁殖（根茎や匍匐枝による）。
	国外	コアメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum minus</i>		指宿市	北米・南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。
	国外	カナリークサヨシ	<i>Phalaris canariensis</i>		鹿児島市・出水市・指宿市・薩摩川内市	地中海沿岸・北アフリカ・カナリー諸島	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コイチゴツナギ	<i>Poa compressa</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・南アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ルビーガヤ	<i>Rhynchelytrum repens</i>		屋久島・奄美群島	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ツノアイアシ	<i>Rottboellia exaltata</i>		鹿児島市・南九州市・奄美群島	熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメササキビ	<i>Setaria barbata</i>		甌島・本土各地・種子島・屋久島・トカラ列島・奄美群島	熱帯アメリカ・熱帯アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>		県本土	中国？	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。工芸用。
	国外	ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonis</i>		県本土・種子島・沖永良部島・徳之島	中国・朝鮮南部・日本	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。工芸用。
	国外	カンザンチク	<i>Pleioblastus hindsii</i>		県本土中南部・甌島・種子島・屋久島・口永良部島	中国南部	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。工芸用。観賞用。
	国外	ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>		鹿児島市・霧島市・いちき串木野市・伊佐市・さつま町・南大隅町	ユーラシア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。
	国内	クマザサ	<i>Sasa veitchii</i>		鹿児島市・垂水市・志布志市・南九州市・姶良市	本州(京都)	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ザラツキエノコロ	<i>Setaria verticillata</i>		離島を含む県内各地	南ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アフリカキンエノコロ	<i>Setaria sphacelata</i>		枕崎市・薩摩川内市・南さつま市・南種子町	アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	トウチク	<i>Sinobambusa tootsik</i>		鹿児島市・指宿市・志布志市・奄美大島・沖永良部島	中国・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。観賞用。
	国外	セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>		離島を含む県内各地	地中海	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。牧草。他感作用あり。
	国外	イヌシバ	<i>Stenotaphrum dimidiatum</i>		鹿児島市・甌島・種子島・奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	タイワンメカルガヤ	<i>Themeda caudata</i>		徳之島	東南アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	シホウチク	<i>Tetragonocalamus quadrangularis</i>		県本土に点在	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。観賞用。
	国外	シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i>		離島を含む県内各地	アフリカ（マダガスカル）	栽培逸出。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。湿生。
	国外	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>		鹿児島市・阿久根市・指宿市・姶良市・悪石島・宝島・奄美大島	熱帯アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。在来の湿生植物を駆逐。通水障害。	総合対策外来種。湿生。1959年、三重県、1980年代神奈川県で確認。根茎から再生。
	国内	ハブカズラ	<i>Epipremnum pinnatum</i>		奄美大島・与論島	琉球（沖縄～八重山）・台湾・東南アジア	栽培逸出	在来種と競合。	観賞用。
	国外	オウゴンカズラ	<i>Epipremnum aureum</i>	指定外来動植物	屋久島・中之島・奄美群島	ニューギニア	栽培逸出。	生態系の攪乱	観賞用。
	国外	ヒメウキクサ	<i>Spirodela punctata</i>		新川溪谷	熱帯アジア（在来？）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	水生。
	国内	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>		離島を含む県内各地	本州（関東以西）～琉球・熱帯アジア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ノハカタカラクサ（トキワツユクサ）	<i>Tradescantia fluminensis</i>		県本土各地・喜界島・与論島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia ohimensis</i>		離島を含む県内各地	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。教材用。
	国外	アメリカコナギ	<i>Heteranthera limosa</i>		徳之島	北米～南米	栽培逸出。	在来種と競合。	1970年代岡山県で確認。繁殖力旺盛（種子生産量が多い）。
	国外	ユリズイセン	<i>Alstroemeria psittacina</i>		離島を含む県内各地	ブラジル	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。

5 定着予防種

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
哺乳類	国外	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	特定外来生物	鹿屋市・枕崎市・阿久根市・指宿市・垂水市・霧島市・姶良市・湧水町・南大隅町	北米	不明。	今後定着すれば、生態系の攪乱・被害、農作物・生活環境への被害が予想される。	総合対策外来種。県内3カ所では1頭が生息していたことが判明しており、拡大前の早期防除・根絶が急務である。
	国外	フイリマングース	<i>Herpestes auropunctatus</i>	特定外来生物	鹿児島市喜入町・薩摩川内市・南さつま市・奄美大島	東南アジア	1979年頃にハブ対策として奄美大島に導入された。県本土は不明。	奄美大島では、アマミノクロウサギをはじめとする固有種を捕食している。	総合対策外来種。奄美大島では2024年に根絶宣言がなされた。県本土では2019年以降確認されていない。
鳥類	国外	コウライキジ	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>		与論島	朝鮮半島	1978年と1988年にバッタの駆除対策として放鳥された。	亜種コウライキジによる生態系及び農業等への影響は軽微であると考えられる。	総合対策外来種。現在はほとんど見られない。現在分布しているのは、その後に放鳥されたキジあるいはキジとの亜種間交雑種と考えられる。
	国外	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i>		県本土・種子島・喜界島・奄美大島・徳之島	北アフリカ・中東・東南アジア	全国各地で観賞用に飼育されていたものが逸出。	近年は個体数が減少している。生態系への影響はないと考えられる。	
爬虫類	国外	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	特定外来生物	奄美大島（龍郷町）	北米～南米大陸	ペットとして飼われる個体の遺棄。	魚類、両生類などの餌となる生物群集への影響、在来カメ類の駆逐。	総合対策外来種。2014年に確認された1例のみ。
両生類	県内	ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		中之島	日本本土・中国大陸	不明。	不明。	2002年に1個体が採集されたが、その後の確認はない。
汽水・淡水産魚類	国外	チャネルキャットフィッシュ	<i>Ictalurus punctatus</i>	特定外来生物	鹿児島市（甲突川）	北米	日本には1971年に導入された。食用個体が逸出したと思われる。	小型の魚類、甲殻類、底生動物、水生昆虫、両生類等を捕食するため、生態系全体への影響が懸念される。	総合対策外来種。甲突川では、1994年に捕獲されている。県内での自然繁殖は不明である。
昆虫類	国外	アカカミアリ	<i>Solenopsis geminata</i>	特定外来生物	志布志市	アメリカ合衆国南部から中米	コンテナ等に付着した非意図的な侵入の可能性がある。	在来アリとの競合、駆逐、人への刺咬被害、カイガラムシ保護による農業被害などを引き起こす。	2022年に志布志港で約200匹が確認された。その後の確認はない。2023年2月末時点で21都府県で確認されている。
	国外	ハヤトゲフシアリ	<i>Lepisiota frauenfeldi</i>	特定外来生物	志布志市	南ヨーロッパ	コンテナ等に付着した非意図的な侵入の可能性がある。	家屋害虫、農業害虫、生態系の攪乱者として、様々な被害をもたらす。	2019年に志布志港で確認された。その後の確認はない。2017年に愛知県で発見された後、同年に東京都、2018年に大阪府、福岡県、2019年に鹿児島県、兵庫県、2020年に沖縄県、2021年に静岡県、2023年に和歌山県で確認されている。
その他節足動物	国外	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		離島を含む県内各地	ハワイ？	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	コモチカワツボ	<i>Potamopyrgus antipodarum</i>		県本土各地	ニュージーランド	不明。	農作物への被害、固有種貝類との競合。	総合対策外来種。汽水産。生息現況不明。
	国外	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>		離島を含む県内各地	カリフォルニア・パナマの太平洋岸	バラスト水に混じって導入された。	養殖筏への被害・固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産。生息現況不明。
維管束植物	国外	ノハラヒジキ	<i>Salsola kali</i>		詳細不明	ユーラシア	非意図的な導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ヒユ	<i>Amaranthus tricolor</i> subsp. <i>Mangostanus</i>		詳細不明	熱帯アメリカ？	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。近縁品種は食用。
	国外	オオツメクサモドキ	<i>Spergula arvensis</i> var. <i>maxima</i>		詳細不明	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アツミゲシ	<i>Papaver setigerum</i>		詳細不明	地中海沿岸	栽培逸出。	人間の健康被害	総合対策外来種。麻薬取締法により栽培禁止。1964年、愛知県で確認。
	国外	カラメドハギ	<i>Lespedeza inschanica</i>		詳細不明	カラメドハギであれば・朝鮮・中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	チャボタイゲキ	<i>Euphorbia peplus</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・西アジア・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アメリカミズユキノシタ	<i>Ludwigia repens</i>		詳細不明	北米～西インド諸島	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	総合対策外来種。湿生。観賞用（アクアリウムプランツ）。1970年、京都府で確認。栄養繁殖（植物片による）。
	国外	アレチモウズイカ	<i>Verbascum virgatum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤセウツボ	<i>Orobanche minor</i>		奄美市	地中海沿岸	非意図的導入（マメ科に随伴）。	牧草の収量減少。在来種の成長阻害の可能性あり。	寄生性。1937年、千葉県で確認。主にマメ科シロツメクサやムラサキツメクサに寄生。セリ科、キク科、フウロソウ科、ナス科にも寄生。
	国外	キンバイタウコギ	<i>Bidens aurea</i>		枕崎市・徳之島	中米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コシカギク	<i>Matricaria matricarioides</i>		詳細不明	アジア東北部	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ミノボロモドキ	<i>Koeleria phleoides</i>		種子島	地中海沿岸～イラン	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>		鹿児島市	ヨーロッパ～西南アジア北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ショクヨウガヤツリ（キハマスゲ）	<i>Cyperus esculentus</i>		日置市・南さつま市・種子島	ヨーロッパ～アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	湿生。
	国外	ヒナウキクサ	<i>Lemna minuscula</i>		詳細不明	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	水生。
	国外	セイヨウアマナ	<i>Ipheion uniflora</i>		詳細不明	南米（アルゼンチン）	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。

6 産業管理種

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
汽水・淡水産魚類	国内	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	指定外来動植物	離島を含む県内各地	関東平野・琵琶湖・淀川水系・岡山平野・四万十川	江戸時代には養殖が開始され、古くから食用、観賞用として放流されてきた。	雑食性であり、植物や水生昆虫、底生動物、魚類、両生類等、多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	飼育型のマゴイが、水産有用種として各地で養殖されている。
	国内	ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>		離島を含む県内各地	琵琶湖・淀川水系	飼育型のヘラブナが、釣りの対象魚として放流された。	不明。	飼育型のヘラブナが、全国各地に移植されている。野生型は環境省RDBの絶滅危惧ⅠB類。
	国内	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>		池田湖・鰻池・住吉池等	南千島～北海道・本州	食用として放流された。	不明。	
	県内	ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>		県本土各地・屋久島	北海道～九州	食用、釣りの対象魚として放流された。屋久島には1970年に、系統保全の目的で多摩川由来の種苗が放流された。	放流用のヤマメ種苗は関東系であることが多く、遺伝的攪乱が懸念される。	県内の自然分布は米之津川水系と、川内川水系のみである。米之津川の個体群は県RDBで消滅危惧Ⅱ類
	国外	タイリクスズキ	<i>Lateolabrax</i> sp.		県本土各地	中国大陸沿岸	1989年頃から養殖用の種苗として導入され、逸出したものが野生化したと思われる。	肉食性が強く、汽水域の在来種の生息を脅かすおそれがある。他県では、在来のスズキが駆逐された海域もある。	県内での自然繁殖は不明。
	国内	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>		県本土各地	北米	養殖施設や釣り堀からの逸出、または釣り愛好者らによる天然水域への意図的な放流によると考えられる。	肉食性で、水生・陸生昆虫や環形動物、甲殻類、小魚類等を捕食する。最大で80cm程になる。県内の一部の河川では在来ヤマメ生息域で本種が確認されており、餌資源や生息空間をめぐる競合が懸念される。	継続的な放流により個体群が維持されており、県内での自然繁殖は確認されていない。他県で懸念されているヤマメ等の産卵床の掘り起こしが生じているかは不明。水産有用種であることから、近年は各地で陸上養殖が行われており、今後、自然水域に逸出するリスクが高まると予測される。
	国外	ドジョウ（大陸由来）	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		奄美大島	東アジア	養殖施設からの逸出や飼育目的の水田等への放流に由来すると考えられる。	在来ドジョウとの交雑による遺伝的攪乱、在来ドジョウの駆逐が懸念される。	奄美大島のシノビドジョウは、外来のドジョウに置き換わったとされている。外見での区別が困難なため、県本土など他の地域にも侵入している可能性がある。
	国内	ミナミメダカ（他地域型のミナミメダカおよび改良メダカ）	<i>Oryzias latipes</i>		薩摩川内市・始良市・米之津川・甲突川・永田川・与論島	本州・四国・九州・甌島・種子島・馬毛島・奄美大島・沖縄島	教育教材や観賞用の改良メダカの逸出、選別に漏れた個体や収容上限を超えた個体の遺棄に由来すると考えられる。	在来の各地方型のミナミメダカと交雑することにより、遺伝的攪乱が懸念される。	県内には薩摩型、大隅型、琉球型の3つの遺伝的に異なるタイプがあるとされる。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	県内	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>		奄美大島	日本本土	放流・食用品の逸出。	固有種貝類との競合。	淡水産。
	国外	チョウセンハマグリ	<i>Meretrix lamarckii</i>		県本土各地	鹿島灘以南・台湾・フィリピン	意図的放流、アサリに混じって導入。	固有種貝類との競合。	海水産（干潟）。
	国外	シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>		離島を含む県内各地	韓国	放流。	固有種貝類との競合。	総合対策外来種。海水産（干潟）。生息現況不明。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国内	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		離島を含む県内各地	有明海・中国	放流。中国産が多量に撒かれている	固有種貝類との競合。	海水産（干潟）。生息現況不明。
維管束植物	国外	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ 中央アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。通水障害。	総合対策外来種。抽水～沈水性。食用（クレソン）。薬用。水質浄化用。ビオトープ用。繁殖力旺盛。
	国外	ハリエンジュ（ニセアカシア）	<i>Robinia pseudoacacia</i>		鹿児島市・垂水市・薩摩川内市・日置市・南さつま市	北米	栽培逸出。	在来種を駆逐。生態系に影響（河原海岸植生改変）。家畜の健康被害（中毒）。	産業管理外来種。観賞用。街路樹。砂防。肥料木。養蜂（蜜源）。薪炭用。繁殖力旺盛（種子生存期間が長い）。萌芽再生する。他感作用あり。刺あり。
	国外	ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>		鹿児島市	ハッカは在来？ ヨウシュハッカ（ペパーミント）はヨーロッパ・北米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（香辛料、ハーブ）。
	国外	マルバハッカ	<i>Mentha suaveolens</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（香辛料、ハーブ）。
	国外	オランダハッカ	<i>Mentha spicata</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（香辛料、ハーブ）。
	国外	モウソウチク	<i>Phyllostachys heterocycla</i>		甕島・県本土	中国	栽培逸出。	生態系の攪乱	産業管理外来種。食用。工芸用。森林に侵入。地滑災害と関連？
	国外	ムラサキウマゴヤシ（アルファルファ）	<i>Medicago sativa</i>		鹿児島市・薩摩川内市・長島町・奄美大島・沖永良部島	地中海地方～西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。食用（幼苗）。
	国外	ムラサキツメクサ（アカクロバ）	<i>Trifolium pratense</i>		鹿児島市・霧島市・湧水町・黒島	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。耐寒性あり（山地植生にも影響？）。江戸時代末期に国内導入。
	国外	シロツメクサ（シロクロバ）	<i>Trifolium repens</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ・アフリカ・西アジア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	牧草。緑化用。耐寒性あり（山地植生にも影響？）。江戸時代初期に国内導入。
	県内	コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>		離島を含む県内各地（奄美大島以北）	北半球	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	産業管理外来種。牧草。耐寒性あり（山地植生にも影響？）
	国外	オートムギ（マカラスムギ）	<i>Avena sativa</i>		県本土各地・竹島・屋久島・口之島	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（エンバク）。牧草。
	国外	アフリカヒゲシバ（ローズグラス）	<i>Chloris gayana</i>		離島を含む県内各地	アフリカ	栽培逸出	在来種と競合。	牧草。
	国外	カモガヤ（オーチャードグラス）	<i>Dactylis glomerata</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ～西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種を駆逐。人間の健康被害（花粉症）。	産業管理外来種。牧草。緑化用（道路法面）。ゴルフ場芝生。耐寒性あり（山地植生にも影響？）。種子繁殖。栄養繁殖（根茎による）。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	オニウシノケグサ （トールフェス ク）	<i>Festuca arundinacea</i>		離島を含む県内各 地	ヨーロッパ～ 西アジア	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	在来種と競合。人間の健康 被害（花粉症）。	産業管理外来種。砂防。緑化 （道路法面）。牧草。1905年、 国内導入。繁殖力旺盛（種子生 産量が多い）。栄養繁殖（根茎 による）。品種名ケンタッキー 31は低温乾燥耐性あり（山地植 生にも影響？）。
	国外	ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>		離島を含む県内各 地（トカラ列島以 北）	ヨーロッパ・ 温帯アジア・ 北アフリカ・ 南西アジア	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	人間や家畜の健康被害（中 毒、花粉症）。	牧草。緑化用。繁殖力旺盛（種 子生産量が多い）。栄養繁殖 （根茎による）。ネズミムギと 交雑。時に有毒（麦角菌寄生に よる）。耐寒性あり（山地植生 にも影響？）。
	国外	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>		離島を含む県内各 地	ヨーロッパ～ 北西アフリカ	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	在来種と競合。人間の健康 被害（花粉症）。	牧草。緑化用。繁殖力旺盛（種 子生産量が多い）。栄養繁殖 （根茎による）。ホソムギと交 雑する。耐寒性あり（山地植生 にも影響？）。
	国外	アメリカスズメノ ヒエ（バヒアグラ ス）	<i>Paspalum notatum</i>		離島を含む県内各 地	熱帯アメリカ	栽培逸出。近隣地域などか ら侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	ナピアグラス（ネ ビアグラス）	<i>Pennisetum purpureum</i>		県本土各地・黒 島・種子島・屋久 島・口永良部島・ 口之島・中之島・ 諏訪之瀬島・小宝 島・宝島・奄美群 島	熱帯アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	牧草。

7 その他外来種

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
鳥類	国外	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica thoracica</i>		県本土全域	中国南部	昭和初期に狩猟鳥として全国で放鳥された。	生態系及び人間生活への影響は報告されていない。	
爬虫類	国内	ヤエヤマイシガメ	<i>Mauremys mutica kami</i>		悪石島	八重山諸島	不明。	不明。	昭和初期から見られる。外来性、及び出所については、遺伝的手法によって要確認。
	国外	ブラーミニメクラヘビ	<i>Indotyphlops braminus</i>		県本土・種子島	おそらく熱帯アジア。	植木鉢の土などに混ざって導入された。	不明。	トカラ諸島、奄美群島のものの多くも、おそらく外来性。
	国外	オガサワラヤモリ	<i>Lepidodactylus lugubris</i>		与論島	太平洋・インド洋島嶼	物資輸送に伴う移入・定着。	不明。	
両生類	県内	ヒメアマガエル	<i>Microhyla okinavensis</i>		諏訪之瀬島	奄美大島以南の琉球列島	1970年代ないし80年代に、学校の教諭が小宝島ないし奄美大島より持ち込み、遺棄した（住民の証言）。	不明。	集落周辺では比較的多い。
	県内	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>		種子島	日本	不明。	不明。	
汽水・淡水産魚類	国外	ヨーロッパウナギ	<i>Anguilla anguilla</i>		池田湖・大隅地域	ヨーロッパ全域・北アフリカ	1980～1990年代に養殖用の種苗として導入された。逸出・放流により野生化したと思われる。	餌や生息空間をめぐり、在来種との競合が懸念される。	現在はワシントン条約の対象種であり、輸出入が規制されている。県内では自然繁殖しない。
	国外	アリゲーターガー（通称）	<i>Atractosteus spatula</i>		鹿児島市（新川）	北米～中米	観賞魚を飼いきれずに遺棄したと思われる。	大型の肉食魚であり、魚類や両生類、鳥類を捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。	定着予防外来種。新川では2003年に捕獲されている。県内では自然繁殖していないと考えられる。
	国内	ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>		鰻池	濃尾平野～九州北部の各地	不明。	在来種のアブラボテと産卵基質の二枚貝をめぐって競合が生じるおそれがある。	タイリクバラタナゴとの交雑があるため、遺伝的な解析が必要。
	国内	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>		川内川水系	関東以西の本州・四国	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	不明。	近年の生息状況は不明である。
	県内	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>		川内川水系・網掛川・甲突川・万之瀬川・肝属川・池田湖	関東～九州・朝鮮半島・台湾・アジア大陸東部	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	不明。	総合対策外来種。池田湖の個体群は導入である。他の産地の由来は自然分布か不明。県内には本種との交雑が懸念されるシナイモツゴは分布していない。
	国内	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>		川内川水系・天降川水系	濃尾平野～九州北部の各地	放流用の種苗に混入して導入されたと思われる。	不明。	川内川水系では、2010年代前半以降に急増した。
	国外	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>		池田湖	アジア大陸東部	日本には1878年にソウギョ種苗に混入して導入された。食用として導入され、その後、水質浄化を目的に放流された。	不明。	総合対策外来種。県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国外	ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>		川内川水系・天降川	アジア大陸東部	日本には1878年以降、数回にわたって導入された。食用として導入され、その後、水質浄化・除草を目的に放流された。	草食性のため、水生植物の激減を招くおそれがある。大量の糞が水質汚濁を招くとされる。	総合対策外来種。県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国内	ヤマトイワナ	<i>Salvelinus leucomaensis japonicus</i>		屋久島	本州	1986年に系統保全の目的で、紀伊半島産由来の卵が放流された。	不明。	過去に放流記録があるが冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	カワマス	<i>Salvelinus fontinalis</i>		大浪池・天降川水系・川内川水系	北米東部	日本には1902年に導入された。	餌や生息空間をめぐり、在来ヤマメとの競合が懸念される。	総合対策外来種。過去に放流記録があるが、冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国外	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>		池田湖	ヨーロッパ	日本には1877～1926年にニジマスもしくはカワマス卵に混入して導入された。	餌や生息空間をめぐり、在来ヤマメとの競合が懸念される。	産業管理外来種。過去に放流記録があるが冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国内	ヒメマス	<i>Oncorhynchus nerka nerka</i>		大隅湖	北海道	食用として試験的に放流された。	不明。	大隅湖で過去に放流記録がある。冷水魚であり、県内では自然繁殖しないと考えられる。
	国外	タイワンキンギョ	<i>Macropodus opercularis</i>		沖永良部島	中国南部・ベトナム・ラオス・台湾	沖縄島から導入されたとの説があるが、詳細は不明。1937年の文献には沖永良部島の記載がある。	沖永良部島では、本種が利用する止水域には在来の淡水魚が生息しておらず、影響は不明。	沖縄島は自然分布とする説もある。外来だとすれば、琉球王朝時代に観賞魚として持ち込まれたと思われる。
	国外	チョウザメ類 (チョウザメ交配種もしくはシベリアチョウザメ)	<i>Acipenser ruthenus</i> × <i>Beluga sturgeon</i> もしくは <i>Acipenser baerii</i>		川内川水系	人工交配種 コチョウザメ × オオチョウザメ ロシアにて作出された	養殖施設からの逸出や飼育個体の放流に由来すると考えられる。 さつま町時吉（2018年）	底生動物食で1mを超える大型魚であり、寿命も長い。ため、自然界に逸出すると長期間にわたり影響を及ぼす可能性がある。	国内でキャビア生産に多く飼育されているものはベステルと呼ばれ、コチョウザメ <i>Acipenser ruthenus</i> とオオチョウザメ <i>Beluga sturgeon</i> をロシアで交配したものとする。
	国内	ドジョウ (国内由来)	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		トカラ列島中之島	日本各地	養殖もしくは飼育目的の放流に由来すると考えられる。	不明。	
	国内	スゴモロコ	<i>Squalidus biwae</i>		肝属川水系	琵琶湖（固有種） 移入により関東平野・静岡県・高知県	不明。何らかの放流種苗に混入して侵入した可能性がある。	不明。水域内での分布は拡大傾向。	環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧種。
海産魚類	国内/国外	ハタ科の人工交配種 (クエタマ・タマクエ)	<i>Epinephelus lanceolatus</i> × <i>E. bruneus</i>		錦江湾・甌島	人工交配種 タマカイ × クエ 国内にて作出された	食用魚として流通しており、養殖個体の逸出に由来すると考えられる。錦江湾では2020年前後から遊漁の対象とされている。	不明。大型の肉食魚であり、様々な魚介類を捕食する。稔性がなく自然繁殖しないとされているが、寿命が長い。ため、個体の生存中は長期にわたり生態系に影響を及ぼす恐れがある。	
昆虫類	国内	コノハチョウ	<i>Kallima inachus eucerca</i>		徳之島・沖永良部島	アジア	沖永良部へは人為的な導入の可能性大。徳之島へは飛来か？	食草はオキナワスズムシソウ、セイタカスズムシソウであり、自然生態系に与える影響は不明。	本来の分布地である沖縄では、県指定天然記念物である。
	国外	クロボシセセリ	<i>Suaetus gremius</i>		県本土～奄美群島 (種子島・屋久島・トカラ列島を除く)	東南アジア	ヤシ科植物の運搬に付随して導入された。	ヤシ科植物の葉を幼虫が食害。	1973年に石垣島で国内初確認後、南西諸島で分布を拡げてきた。2006年に指宿で確認後、2014年頃から鹿児島市内中心部にも分布拡大。
	県内	ヒメスギカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>		奄美群島	北海道～九州	意図的な導入。	スギを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	奄美ではスギも導入種ではある。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>		県本土・種子島	中国	意図的な導入と思われる。	カラムシなどの草本を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	県内	ヨツモンカメノコハムシ	<i>Laccoptera quadrimaculata</i>		県本土・屋久島	奄美以南	意図的な導入と思われる。	サツマイモ、ノアサガオ、ハマヒルガオを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	1997年奄美大島（今坂）、1999年長崎（山元）、2002年鹿児島（RDB）、2007年喜界島、2008年屋久島（久保田）、2013鹿児島市、2013年種子島、2014下甕、2015指宿、2015いちき串木野。
	県内	オキナワイチモンジハムシ	<i>Morphosphaera coerulea</i>		南薩～屋久島	奄美以南	意図的な導入と思われる。	ガジュマル、イヌビワ、オオイタビなどの葉を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	2005年4月に屋久島町中間で初めて採集。その後急増し屋久島内で広がる。南薩でも確認され始めた。
	国内	バショウオサゾウムシ	<i>Cosmopolites sordidus</i>		奄美群島	小笠原	意図的な導入と思われる。	バナナやイトバショウなどを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国内	バナナツヤオサゾウムシ	<i>Odoiporus longicollis</i>		奄美大島	小笠原	意図的な導入と思われる。	バナナやイトバショウなどを食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国外	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus</i>		県本土・奄美群島	北米	意図的な導入。	ゴルフ場などの芝生を食害する。自然生態系に与える影響は不明。	
	国内	タイワンカブトムシ	<i>Oryctes rhinoceros</i>		奄美群島	沖縄	沖縄県には意図的に導入された。県内への侵入経路は不明。	成虫はヤシの新芽を食害し、枯死させる。	幼虫は堆肥を食べる。
	県内	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>		奄美大島	北海道～屋久島	意図的な導入と思われる。	自然生態系に与える影響は不明。	奄美に土着のツギガタマメコガネとの交雑の可能性がある。
	県内	オキナワスジボタル	<i>Curtos okinawanus</i>		県本土	沖永良部島以南	意図的な導入。	陸生貝類を食べる。自然生態系に与える影響は不明。	1995年に指宿市で定着。その後鹿児島市谷山、枕崎市、鹿屋市高須でも定着確認。
	国外	カドフシニセハリアリ	<i>Hypoconera opaciceps</i>		奄美大島	南米	不明。	稀な種で、自然生態系への影響は軽微。	
	国外	クビレハリアリ	<i>Ooceraea biroi</i>		奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島	不明	不明。	比較的稀な種で、自然生態系への影響は軽微。	
	国外	トカラウロコアリ	<i>Strumigenys membranifera</i>		県本土・屋久島・トカラ列島・奄美大島・沖永良部島・与論島	アフリカ（?）	不明。	攪乱地に限って生息し、自然生態系への影響は軽微。	石の下などに営巣する。
	国外	フタイロヒメアリ	<i>Monomorium floricola</i>		屋久島・宝島・小宝島・奄美群島	旧熱帯	不明。	半自然環境に生息し、在来の生物に負の影響を及ぼす可能性がある。	樹上の枯死部などに営巣する。
	国外	シワヒメアリ	<i>Erromyrma latinodis</i>		沖永良部島・与論島	不明	不明。	海岸や人家の庭などに生息し、在来の生物に負の影響を与える可能性がある。	
	国外	キイロハダカアリ	<i>Cardiocondyla obscurior</i>		県本土各地（薩摩半島南部）・上甕島・屋久島・奄美大島・沖永良部島・与論島	熱帯アジア（?）	おそらく非意図的な導入。	攪乱地に生息する比較的稀な種で、自然生態系に与える影響は軽微。	県本土では2012年に枕崎港から初めて記録された。その後2019年に薩摩川内市上甕島里港、2021年に日置市伊集院町で確認されている。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	県内	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>		奄美大島・徳之島・喜界島	本州～台湾	土のついた樹木とともに運ばれた可能性が高い。	自然生態系に与える影響は未知。	奄美・徳之島・喜界には分布していなかった。1990年代に奄美大島、2000年代に徳之島、2010年代に喜界島に侵入し、定着した。
	国外	アオマツムシ	<i>Truljalia hibinonis</i>		県本土	中国	樹皮に産みつけられた卵が樹木とともに運ばれた？	主に街路樹の葉や小昆虫を食べる。自然生態系への影響は報告されていない。	1898年に東京で鳴き声確認、1915年に初確認。1998年頃には北部九州に分布していた。2002年8月31日に、鹿児島市内の公園サクラの木で鳴き声が初確認。2006年に薩摩半島南さつま市（旧加世田市）、大隅半島垂水まで分布拡大。
	国外	アワダチソウゲンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>		県本土各地	北米	意図的な導入と思われる。	キク科作物（キク、ヒマワリ等）、サツマイモ、ナス等の農作物への影響がある。吸汁により葉を白斑症状やすす病を引き起こし、酷い場合は葉が枯れ落ち植物の生育に影響を与える。	国内では2000年に兵庫県西宮市で初確認された。県内では2008年10月に霧島市国分で初確認された。
	国外	ムネアカハラビロカマキリ	<i>Hierodula chinensis</i>		未定着	中国	卵鞘の付着した竹箒が中国から輸入されて、各地に広がった可能性がある。	自然生態系に与える影響は未知。	県内では2017年に鹿児島市で確認された。
	県内	リュウキュウアブラゼミ	<i>Graptopsaltria bimaculata</i>		出水市	奄美大島・加計呂麻島・請島・徳之島・沖縄諸島	土のついた樹木とともに運ばれた可能性がある。	自然生態系に与える影響は未知。	2018年9月に出水市で確認され、その後定着した。
	国外	トガリアメンボ	<i>Rhagadotarsus kraepelini</i>		県本土各地	東南アジア・イラン・ニューギニア・台湾	国内へは輸入された水生植物に卵が付着して侵入した可能性が高い。飛翔能力が高く、国内侵入後に分布域を拡大している。	自然生態系に与える影響は未知。	国内では2001年に兵庫県で初めて発見された。県内では2013年10月に伊佐市大口で初確認された。その後、霧島市、薩摩郡さつま町、姶良市、霧島市、伊佐市、いちき串木野市、薩摩川内市、南さつま市、肝属郡肝付町、志布志市でも確認された。
	国内	オキナワキンケビロウドカミキリ	<i>Acalolepta permutans okinawana</i>		県本土各地（薩摩半島）	沖縄諸島	意図的な導入と思われる。	幼虫はウコギ科、トベラ科の生木を食害し、成虫はウコギ科の葉を後食する。自然生態系に与える影響は未知。	2007年、2013年、2014年に鹿児島市千貫平公園で確認され、その後2015年には南九州市知覧町でも見つかった。
	国外	スキバドクガ	<i>Perina nuda</i>		奄美大島・薩摩半島	東南アジア	不明。一部自力飛行？	幼虫はガジュマル・アコウ・イヌビワなどクワ科植物の葉を食害する	鹿児島県における詳しい分布は未調査。
	国内（国外の可能性もあり）	トウキョウヒメハシムシ	<i>Cylindera kaleea yedoensis</i>		鹿児島市	中国、本州鹿児島県以外の九州	不明。幼生が土に混入していた可能性あり。	今の所大きな影響は考えられない。	公園や民家の庭などに生息。
陸産貝類・淡水汽水産貝類	国外	オカクチキレガイ	<i>Subulina octoma</i>		奄美群島	東南アジア	不明。	不明。	陸産。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ノハラナメクジ	<i>Deroceras reticulatum</i>		県本土各地（薩摩地方）	ヨーロッパ	不明。	不明。	陸産。
維管束植物	国内	コウヤワラビ	<i>Oncoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>		出水市・伊佐市	九州中部	非意図的導入？	在来種と競合。	シダ。国内外来種。
	国外	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。耕作地の夏期害草。	観賞用。
	国外	ケイトウ	<i>Celosia cristata</i>		各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヤマゴボウ	<i>Phytolacca acinosa</i>		鹿児島市・甕島	ヒマラヤ～中国	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	有毒。（山菜の山牛蒡とは別種）
	国外	ヒナゲシ	<i>Papaver rhoeas</i>		離島を含む県内各地に散在	ヨーロッパ	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	カラクサケマン	<i>Fumaria officinalis</i>		鹿児島市・指宿市・屋久島・徳之島・沖永良部島	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>		鹿児島市	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。明治以前に国内へ導入。戦後に再導入。
	国外	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>		離島を含む県内各地	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用（菜種油）。明治時代に国内導入。
	国外	ササゲ	<i>Vigna unguiculata</i>		鹿児島市・阿久根市・出水市・長島町・与論島	西～中央アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ホンカンゾウ	<i>Heimerocallis fulva</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ・アジア	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉（在来種と雑種形成の可能性あり）。	観賞用。
	国外	オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>		県本土・種子島	中国・朝鮮・北海道～九州（自生？）	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。栄養繁殖（むかごによる）。
	国外	タイワンホトトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>		離島を含む県内各地	台湾	栽培逸出。	在来種と競合。繁殖干渉（在来種と雑種形成の可能性あり）。	観賞用。
	国外	アオノリュウゼツラン	<i>Agave americana</i>		鹿児島市・離島各地	メキシコ	栽培逸出（海岸園地などの植栽品が野生化）。	在来種と競合。	総合対策外来種。観賞用。
	国外	スイセン	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>		種子島	中国	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>		離島を含む県内各地	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ルリニワゼキショウ（アイイロニワゼキショウ）	<i>Sisyrinchium angustifolium</i>		鹿児島市・薩摩川内市・志布志市・伊佐市・肝付町	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オオニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium</i> sp.		県本土・黒島・種子島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ハナシュクシャ	<i>Hedychium coronarium</i>		離島を含む県内各地	インド～インドシナ	栽培逸出（観賞用を遺棄？）。非意図的導入。近隣地域などから侵入。（鳥散布？）。	在来種と競合。亜熱帯地域では林床や湿地の植生改変の可能性あり。	総合対策外来種。観賞用。栄養繁殖（根茎による）。
	国外	ダンドク	<i>Canna coccinea</i>		離島を含む県内各地	熱帯アメリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ギョクチン	<i>Cymbidium gyokuchin</i>		肝付町	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i>		日置市・さつま町・屋久島	中南米	栽培逸出。	在来種との競合、被陰、富栄養化。	シダ。
	国外	アマゾンチカガミ	<i>Limnobiium laevigatum</i>		鹿児島市・鹿屋市・志布志市	南米	栽培逸出。	在来種と競合。水生の在来種を駆逐。	観賞用。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ミドリハカタカラクサ	<i>Tradescantia fluminensis</i> cv. Variegata		県本土各地・奄美大島	南米原産種の品種	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。ノハカタカラクサの品種。
	国外	テリハバンジロウ	<i>Psidium cattleyanum</i>		鹿児島市・西之表市・奄美大島・徳之島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	アカザカズラ	<i>Anredera cordifolia</i>		奄美大島	南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	アフリカホウセンカ	<i>Impatiens walleriana</i>		屋久島・宝島・奄美大島・徳之島	アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	コケセンボンギクモドキ	<i>Erigeron belliioides</i>		奄美大島	中米	非意図的導入。	在来種を駆逐。	
	国外	タデバチドメグサ	<i>Hydrocotyle vulgaris</i>		枕崎市・与論島	南米・アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	県内	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>		奄美大島・与論島	寒帯～暖帯	非意図的導入。	在来種と競合。	造成土に混じっていたと思われる。
	国外	ユメノシマガヤツリ	<i>Cyperus congestus</i>		鹿児島市	南アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ウスバスナゴシヨウ	<i>Peperomia pellucida</i>		鹿児島市・南さつま市・奄美大島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用、食用。
	国外	アレチノチャヒキ	<i>Bromus sterilis</i>		鹿児島市	ヨーロッパ・北アフリカ・アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	不明	シラン	<i>Bletilla striata</i>		離島を含む県内各地（県内の明確な自然分布地は不明で栽培逸出が主）	本州～鹿児島	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ヒメヒオウギズイセン	<i>Crocasmia</i> × <i>crocosmiiflora</i>		離島を含む県内各地	アフリカ原産種の交雑種	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。ヒオウギズイセンとヒメトウショウブの雑種。
	国外	グラジオラス	<i>Gladiolus</i> × <i>colvillii</i>		薩摩川内市・宝島・奄美大島・与論島・沖永良部島・与論島	ユーラシア・アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	キバナニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium exile</i>		鹿児島市・姶良市・奄美大島	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ニセシマニシキソウ	<i>Euphorbia ophthalmica</i>		志布志市	熱帯～亜熱帯	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	リュウキュウバショウ	<i>Musa balbisiana</i> var. <i>liukuensis</i>		指宿市・南大隅町・離島各地	中国・東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	繊維用。
	国外	ベニバナシュクシャ	<i>Hedychium coccineum</i>		鹿屋市・薩摩川内市・南さつま市	インド～インドシナ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。ハナシュクシャの園芸品種。
	国外	ミナミコミカンソウ	<i>Phyllanthus embergeri</i>		西之表市	東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ニセコウガイゼキショウ	<i>Juncus marginatus</i>		奄美大島	北中南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメミクリガヤツリ	<i>Cyperus retrorsus</i>		南さつま市・奄美大島	北米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国内	スナハマスゲ	<i>Cyperus stoloniferus</i>		種子島・奄美大島	沖縄	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	県内	トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>		奄美大島	北海道～九州	非意図的導入。	在来種と競合。	緑化用（路面、道路法面）。
	国外	カラスムギ	<i>Avena fatua</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ・西アジア	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	牧草。
	国外	オオモンツキガヤ	<i>Bothriochloa pertusa</i>		徳之島	東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ニセコバンソウ	<i>Bromus briziformis</i>		鹿児島市	中央アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	アメリカアワゴケ	<i>Callitriche terrestris</i>		枕崎市	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	シマヒゲシバ	<i>Chloris barbata</i>		鹿児島市	中米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ナガヒゲシバ	<i>Chloris pycnothrix</i>		奄美群島	中南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ホウキヌカキビ	<i>Dichanthelium scoparium</i>		南さつま市・奄美大島	北米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オニササガヤ	<i>Dichanthium aristatum</i>		与論島	東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキノキビ	<i>Eriochloa procera</i>		奄美群島	熱帯アジア・アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スズメノナギナタ	<i>Parapholis incurva</i>		種子島	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ナガバスズメノヒエ	<i>Paspalum longifolium</i>		南さつま市・加計呂麻島・与路島	インド・東南アジア・中国南部・オセアニア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	不明	フタシベネズミノオ	<i>Sporobolus diandrus</i>		離島各地	中央アジア～東アジア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スリナムグラス	<i>Urochloa eminii</i>		加計呂麻島・与路島・与論島	中央アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	シラユキゲン	<i>Eomecon chionantha</i>		鹿児島市・出水市・指宿市・湧水町	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	イヌカミツレ	<i>Tripleurospermum maritimum</i> subsp. <i>inodorum</i>		鹿児島市	ヨーロッパ～アジア北部	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	トゲミノキツネノボタン	<i>Ranunculus muricatus</i>		出水市・長島町	アフリカ・西アジア・ヨーロッパ	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ブドウカズラ	<i>Tetrastigma voinierianum</i>		奄美大島	東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	アフリカタヌキマメ	<i>Crotalaria trichotoma</i>		奄美大島・沖永良部島	東アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ハイクサネム	<i>Desmanthus illinoensis</i>		指宿市・奄美大島・徳之島・沖永良部島	北米	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	タイワンハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i> subsp. <i>formosa</i>		垂水市・奄美群島	中国・台湾	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> subsp. <i>varia</i>		鹿児島市・南さつま市・種子島	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	シナサワグルミ	<i>Pterocarya stenoptera</i>		鹿児島市・始良市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	タイワンハンノキ	<i>Alnus japonica</i> var. <i>formosana</i>		奄美群島	台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	シュウカイドウ	<i>Begonia grandis</i>		鹿児島市・薩摩川内市・屋久島・奄美大島・徳之島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	スズメノトケイソウ	<i>Passiflora suberosa</i>		徳之島・与論島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	カワリバトウダイ	<i>Euphorbia graminea</i>		奄美大島・沖永良部島・与論島	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	シマニシキソウ	<i>Euphorbia hirta</i>		離島を含む県内各地	中南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	コバノニシキソウ	<i>Euphorbia makinoi</i>		長島町・南大隅町・奄美群島	中国・台湾・フィリピン	非意図的導入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	アレチニシキソウ	<i>Euphorbia</i> sp. aff. <i>prostrata</i>		鹿児島市・出水市・肝付町・屋久島・中之島	不明	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	イリオモテニシキソウ	<i>Euphorbia thymifolia</i>		奄美大島・徳之島	不明	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	シマミソハギ	<i>Ammannia baccifera</i>		種子島	熱帯アジア	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ネバリミソハギ	<i>Cuphea carthagenensis</i>		奄美大島・与路島	中南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>		鹿児島市	九州（福岡・長崎・熊本）・中国・インド	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	セイヨウミズユキノシタ	<i>Ludwigia palustris</i>		奄美大島	南北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。水生の在来種を駆逐。	観賞用水草。
	国外	ミナトマツヨイグサ	<i>Oenothera indecora</i>		鹿屋市・志布志市・大崎町・種子島	南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ヤマモモソウ	<i>Oenothera lindheimeri</i>		霧島市・徳之島	北米	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i>		指宿市・南大隅町・屋久島・種子島・奄美大島	中央アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヤノネボンテンカ	<i>Pavonia hastata</i>		鹿児島市	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i>		出水市・霧島市・南九州市・姶良市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	庭木等。
	国外	ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>		鹿児島市・薩摩川内市・曾於市・屋久島	ユーラシア	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ノミノツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>serpyllifolia</i>		離島を含む県内各地	ユーラシア	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ネバリノミノツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>viscida</i>		鹿児島市	ユーラシア	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	マンテマモドキ	<i>Silene dichotoma</i>		鹿児島市・甕島	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	コハコベ	<i>Stellaria media</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>		離島を含む県内各地	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	クルマバザクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>		県本土各地	中国	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ルリハコベ	<i>Anagallis arvensis</i> var. <i>caerulea</i>		離島を含む県内各地	ヨーロッパ	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	タマザキフタバムグラ	<i>Oldenlandia corymbosa</i>		離島を含む県内各地	熱帯アジア・アフリカ・アメリカ	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ブラジルハシカグサモドキ	<i>Richardia brasiliensis</i>		長島町	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ヒロハフタバムグラ	<i>Spermacoce alata</i>		南九州市	中南米	非意図的導入。	在来種と競合。	

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ナガバハリフタバ	<i>Spermacoce remota</i>		奄美大島・徳之島・与論島	中南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	テリミノイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>		離島を含む県内各地	北米・南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>		離島を含む県内各地	中南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ナガボノウルシ	<i>Sphenoclea zeylanica</i>		鹿屋市・薩摩川内市	熱帯アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	アレロパシー物質を持つ。
	国内	ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i>		鹿児島市・始良市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキウンラン	<i>Linaria bipartita</i>		甕島	北アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	オオマツバウンラン	<i>Nuttallanthus texanus</i>		南さつま市	北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤナギバレイラソウ	<i>Ruellia simplex</i>		離島を含む県内各地	中米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ケブカルイラソウ	<i>Ruellia squarrosa</i>		屋久島・奄美大島・徳之島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	リュウキュウアイ	<i>Strobilanthes cusia</i>		離島を含む県内各地	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	染料用。
	国外	タイワンレンギョウ	<i>Duranta erecta</i>		奄美大島・喜界島・沖永良部島・与論島	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ダキバアレチハナガサ	<i>Verbena × incompta</i>		離島を含む県内各地	南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ボタンクサギ	<i>Clerodendrum bungei</i>		鹿屋市・指宿市・薩摩川内市・伊佐市・南大隅町	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	サケバキンチャクソウ	<i>Calceolaria tripartita</i>		徳之島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ヒナキキョウソウ	<i>Triodanis biflora</i>		鹿屋市・薩摩川内市・南大隅町・屋久島	北米・南米	栽培逸出。非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤリセンニチモドキ	<i>Acmella brachyglossa</i>		奄美大島・加計呂麻島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	アオヨモギ	<i>Artemisia dubia</i> var. <i>subdigitata</i>		鹿児島市・南さつま市	中国～ヒマラヤ	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	ヒメイワヨモギ	<i>Artemisia freyniana</i>		出水市・南さつま市・南九州市・種子島	東アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	ホソバヨモギ	<i>Artemisia mongolica</i>		出水市・南さつま市・甕島・奄美大島	東アジア～中央アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	タチスナジヨモギ	<i>Artemisia pubescens</i>		南さつま市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国内	ハマヨモギ	<i>Artemisia scoparia</i>		鹿児島市・出水市・南さつま市・屋久島・奄美大島	ユーラシア	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	ウラジロヒメイワヨモギ	<i>Artemisia stechmanniana</i>		南さつま市	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	リョウトウヨモギ	<i>Artemisia verbenaeifolia</i>		南さつま市・奄美大島・加計呂麻島	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	アイノコセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>intermedia</i>		甕島	南北アメリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	雑種。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ハイシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i> f. <i>decumbens</i>		指宿市・黒島・奄美群島	中南米	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	アイノゲシ	<i>Sonchus oleaceo-asper</i>		鹿児島市・鹿屋市・南九州市・肝付町・徳之島	外来のオニノゲシと在来とのゲシの交雑種	在来種との交雑。	在来種と競合。在来種と交雑。	
	国外	ヒロハホウキギク	<i>Symphytotrichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>		鹿児島市・薩摩川内市・日置市・伊佐市・種子島・奄美群島	北中米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国内	カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>		薩摩川内市・長島町・宝島	本州（関西以西）～北九州	近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	コトブキギク	<i>Tridax procumbens</i>		鹿児島市・奄美大島・徳之島	南米	近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヤドリフカノキ	<i>Heptapleurum arboricola</i>		指宿市・西之表市・奄美群島	中国・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用（庭木）。
	国外	カミヤツデ	<i>Tetrapanax papyrifer</i>		県本土各地・種子島・屋久島・奄美大島	中国・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	イチハツ	<i>Iris tectorum</i>		霧島市・奄美大島・沖永良部島	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイタカハマスゲ	<i>Cyperus longus</i>		鹿児島市	ヨーロッパ～アフリカ	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	クロコヌカグサ	<i>Agrostis nigra</i>		鹿児島市・日置市	不明	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒツパリガヤ	<i>Hyparrhenia rufa</i>		徳之島	アフリカ	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ムラサキタカオススキ	<i>Saccharum formosanum</i> var. <i>pollinioides</i>		奄美大島	台湾	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメモロコシ	<i>Sorghum halepense</i> f. <i>muticum</i>		南さつま市・トカラ列島	西アジア・中央アジア・北アフリカ	非意図的導入。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	セイバンモロコシの品種。
	国外	ガランビトウロウソウ	<i>Kalanchoe spathulata</i> var. <i>garambiensis</i>		徳之島	台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ヒイラギトラノオ	<i>Malpighia coccigera</i>		奄美大島	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	オトメフウロ	<i>Geranium dissectum</i>		鹿児島市・阿久根市	ヨーロッパ	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	マルバキンゴジカ	<i>Sida cordifolia</i>		奄美大島	東アジア・北中米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i>		鹿児島市・いちき串木野市	ヨーロッパ・北米	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	
	国外	スズメナスビ	<i>Solanum torvum</i>		奄美大島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> var. <i>dubia</i>		口之島・中之島	北米・南米	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	オオバナイトタヌキモ	<i>Utricularia gibba</i>		薩摩川内市	熱帯～亜熱帯	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	ヒメセンニチモドキ	<i>Acmella uliginosa</i>		徳之島	北中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	チョウセンヨモギ	<i>Artemisia argyi</i>		鹿児島市・南さつま市・南九州市	東アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	マンシュウオトコヨモギ	<i>Artemisia japonica</i> var. <i>manshurica</i>		鹿児島市	東アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。
	国外	モリヨモギ	<i>Artemisia sylvatica</i>		南さつま市	中国・ロシア	栽培逸出。	在来種と競合。	緑化用（道路法面）。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>		宝島	ヨーロッパ・中央アジア	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	エダウチチコグサ	<i>Gamochaeta sylvatica</i>		日置市・種子島	中央アジア	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>		鹿児島市・南さつま市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	セイタカハハコグサ	<i>Pseudognaphalium luteoalbum</i>		始良市	東南アジア・オセアニア	非意図的導入。	在来種と競合。	
	国外	モンステラ	<i>Monstera deliciosa</i>		徳之島	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	センネンボク	<i>Cordyline fruticosa</i>		鹿児島市・南大隅町・種子島・屋久島・奄美群島	オセアニア	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ムラサキオモト	<i>Tradescantia spathacea</i>		喜界島・沖永良部島・与論島	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	シマムラサキツユクサ	<i>Tradescantia zebrina</i>		伊佐市・種子島・喜界島・奄美大島・沖永良部島・与論島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	クマタケラン	<i>Alpinia × formosana</i>		離島を含む県内各地	台湾・中国	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞、薬用。
	国外	ゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i>		離島を含む県内各地	熱帯アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	薬用。
	国外	ハナヤエムグラ	<i>Sherardia arvensis</i>		薩摩川内市・鹿屋市	ヨーロッパ	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>		鹿児島市・出水市・霧島市	北米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ホウオウチク	<i>Bambusa multiplex 'Fernleaf'</i>		鹿児島市・指宿市・喜界島・徳之島・沖永良部島	ホウライチクの品種	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。ホウライチクの園芸品種。
	国内	オカメザサ	<i>Shibataea kumasaca</i>		県本土各地・屋久島	原産地不明	栽培逸出。	在来種と競合。	四国・九州には自然分布があるとされるが、ほとんどは栽培逸出と思われる。
	国外	キンチョウ	<i>Kalanchoe delagoensis</i>		鹿児島市・屋久島・奄美群島	マダガスカル	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	デリス	<i>Derris elliptica</i>		南大隅町・奄美群島	熱帯アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	魚毒として利用され、各地で栽培。
	国外	コバノセンナ	<i>Senna pendula</i>		鹿児島市・奄美大島・沖永良部島	南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ユキヤナギ	<i>Spiraea thunbergii</i>		鹿児島市・南さつま市・悪石島	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	マグワ	<i>Morus alba</i>		鹿児島市・垂水市・さつま町・南大隅町・喜界島	中国	栽培逸出。	在来種と競合。	養蚕。
	国外	カニングムモクマオウ	<i>Casuarina cunninghamiana</i>		鹿児島市・南大隅町・徳之島・与論島	オーストラリア	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	
	国内	オオバヤシバシ	<i>Alnus sieboldiana</i>		離島を含む県内各地（奄美大島以北）	福島～和歌山	栽培逸出。非意図的導入。	在来種と競合。	海岸付近に植栽。
	国外	フクギ	<i>Garcinia subelliptica</i>		奄美群島	東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	庭木や街路樹。
	国外	テリハボク	<i>Calophyllum inophyllum</i>		屋久島・沖永良部島・与論島	熱帯アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	庭木や街路樹。

生物群	由来別	種（類）	学名	法的整理	県内の導入分布地	原産地	侵入の経緯	影響の内容	特記事項
	国外	ショウジョウソウモドキ	<i>Euphorbia heterophylla</i>		垂水市・姶良市	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	
	国外	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>		離島を含む県内各地	中国・台湾	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	パンジロウ	<i>Psidium guajava</i>		南大隅町・屋久島・種子島・諏訪之瀬島・平島・奄美群島	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ウキツリボク	<i>Callianthe megapotamica</i>		鹿児島市・霧島市	ブラジル	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	パパイヤ	<i>Carica papaya</i>		屋久島・奄美群島	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	ジュズサンゴ	<i>Rivina humilis</i>		奄美市・与論島	北米・南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ツルムラサキ	<i>Basella alba</i>		奄美群島	東南アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	食用。
	国外	オキナアサガオ	<i>Jacquemontia tamnifolia</i>		鹿児島市	中南米	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ミミバフサアサガオ	<i>Camoena umbellata</i>		奄美大島	熱帯アジア	栽培逸出。	在来種と競合。	つる性。観賞用。
	国外	ヤコウカ	<i>Cestrum nocturnum</i>		阿久根市・南大隅町・トカラ列島・奄美群島	中米	栽培逸出。	在来種と競合。	芳香がある。
	国外	ソケイ	<i>Jasminum officinale</i>		鹿児島市・出水市	インド	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国外	ベニニガナ	<i>Emilia coccinea</i>		鹿児島市・種子島	アフリカ	栽培逸出。	在来種と競合。	観賞用。
	国内	ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i>		鹿児島市・鹿屋市・指宿市・霧島市・甕島	北海道・本州・四国・九州（鹿児島県記録なし）	栽培逸出。近隣地域などから侵入。	在来種と競合。	観賞用。